ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ市街庄ノ徴收シタル金額ノ百分ノ四以內ヲ其ノ市街庄ニ交付スベシ

州廳農會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テハ其ノ會長ノ請求アルトキハ市街庄ハ市街庄稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ農會ハ其ノ徴收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市街庄ニ交付スベシ

前項ニ規定スル徴收金ノ先取特權ノ順位ハ市街庄ノ徴收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市街庄稅ノ例ニ依ル

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徴收ニ關シテハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立及裁決ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 避クベカラザル災害ニ因リ市街庄既收ノ農會ノ經費又ハ過怠金ヲ失ヒタルトキハ其ノ徴收金ニ付州廳農會ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ市街庄ニ對シ納入ノ義務ヲ免除スベシ

第二十六條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徴收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 臺灣總督ハ農會ニ對シ會務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、會務執行又ハ財產ノ狀況ヲ檢査シ、會則、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 臺灣總督ハ農會ノ決議若ハ選擧又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議、選擧若ハ當選ヲ取消シ、役員若ハ特別議員ヲ解任シ、議員若ハ豫備議員ノ職務ヲ停止シ又ハ農會ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第二十九條 州廳ノ廢置分合ニ因リ州廳農會合併又ハ分割ヲ爲サントスルトキハ合併ノ場合ニ在リテハ總會ノ議決ヲ經會則ヲ議定シ、分割ノ場合ニ在リテハ總會ノ議決ヲ經農會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ會則ヲ議定シ臺灣總督ノ認可ヲ受クベシ

第十二條及第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 合併後存續スル農會又ハ合併ニ因リテ設立シタル農會ハ合併ニ因リテ消滅シタル農會ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル農會ハ前條第一項ノ規定ニ依リテ定マリタル限度ニ於テ從前ノ農會ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十一條 農會解散ヲ爲サントスルトキハ總會ノ議決ヲ經且其ノ會員ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得事由ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クベシ

第十一條第二項ノ規定ハ州廳農會解散ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ準用ス

農會ハ第一項ノ認可ヲ受ケタル時解散ス

第三十二條 農會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第三十三條 農會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス

清算人缺ケタルトキハ臺灣總督之ヲ命ズ

清算人ハ農會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財產處分ニ付テハ臺灣總督ノ認可ヲ受クベシ

第三十四條 臺灣總督必要ト認ムルトキハ清算方法及財產處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

附 則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

臺灣農會規則ハ之ヲ廢止ス

臺灣農會規則ニ依リ設置セラレタル農會ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ本令ニ依ル州廳農會ト看做ス

前項ノ農會ハ本令施行後三月以內ニ本令及本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ會則ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ申請スベシ

第三項ノ農會ノ規約ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反スルモノヲ除クノ外前項ノ認可ヲ受ケタル迄本令ニ依リ臺灣總督ノ認可ヲ受ケタル會則ト看做ス

第三項ノ農會ノ代表者ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ルモノハ本令ニ依ル州廳農會ノ議員ト看做シ昭和十三年十二月三十一日迄仍其ノ職ニ在ルモノトス但シ本令施行ニ依リ會員タル資格ヲ失ヒタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前四項ニ定ムルモノヲ除クノ外本令施行ノ際必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

○臺灣農會令施行規則

昭和十三年三月十六日
府令第二十四號

第一條 州廳農會支會ヲ置カントスルトキハ其ノ區域ハ郡市ノ區域ニ依ルベシ

支會ニ關シ必要ナル事項ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第二條 州廳農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區內ニ住所又ハ居所ヲ有セザル會員ヲシテ其ノ地區內ニ代理人ヲ定メシムルコトヲ得

農會ハ前項ノ代理人ニ對スル通知ヲ以テ本人ニ對スル通知ニ代フルコトヲ得

第三條 農會ヲ設立セントスルトキハ會員タル資格ヲ有スル者發起人ト爲リ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ地區、創立費用、一事業年度ノ收支概算及經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムベシ

第四條 創立總會ハ州廳農會ニ在リテハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者、臺灣農會ニ在リテハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

創立總會ヲ招集セントスルトキハ州廳農會ニ在リテハ招集ノ期日前七日目迄ニ、臺灣農會ニ在リテハ招集ノ期日前十日目迄ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シ創立總會ヲ組織スベキ者ニ對シ其ノ通知ヲ發シ尙州廳農會ニ在リテハ之ヲ公告スベシ

第六條 創立總會ノ議決ハ之ヲ組織スル者二分ノ一以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スベシ

州廳農會ノ創立總會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席者ト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ委任ヲ受ケタル者ハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ差出スベシ

創立總會ノ議長ハ出席者中ヨリ之ヲ互選スベシ

第三十一條ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第七條 農會ノ負擔ニ歸スベキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第八條 創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク設立認可申請書ヲ臺灣總督ニ差出スベシ

前項ノ認可申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事錄ノ謄

本ヲ添附スベシ

臺灣農會令第十一條第二項但書ノ場合ニ於テハ前項ニ揭グルモノノ外其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第九條 會則ニハ臺灣農會令及本令ニ規定スルモノノ外左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一 名稱
二 事業
三 事務所
四 役員及議員ノ定數
五 會議ニ關スル規定
六 會計及財産ニ關スル規定

第十條 臺灣總督農會ノ設立ヲ認可シタルトキハ其ノ名稱、地區、事務所及認可ノ年月日ヲ告示ス其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同ジ

第十一條 州廳農會ノ議員ノ選擧ニ付テハ選擧區ヲ設クルコトヲ得

選擧區ノ區域、各選擧區ヨリ選擧スベキ議員ノ數其ノ他選擧區ニ關シ必要ナル事項ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第十二條 州廳農會ノ會長ハ議員ノ選擧期日前四十日目ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スベシ

選擧人名簿ノ縱覽、選擧人名簿ニ關スル異議ノ申立其ノ他選擧人名簿ニ關シ必要ナル事項ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第十三條 州廳農會ノ議員ノ選擧ニ付テハ會長又ハ會長ノ指名シタル者選擧長トナル

第十四條 州廳農會ノ議員ノ選擧ハ單記無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

投票ハ選擧人自ラ之ヲ行フベシ但シ法人（祭祀公業ヲ含ム）ニ在リテハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ其ノ法定代理人之ヲ行フベシ

選擧人名簿ニ登錄セラレザル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ズ但シ選擧人名簿ニ登錄セラルベキ旨ノ決定ヲ受ケ之ヲ證スル書面ヲ持參シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ
二 現ニ州廳農會ノ議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三 一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四 被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
五 被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
六 被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ僻位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 州廳農會ノ議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同ジキトキハ年長者ヲ取リ年齡ニ依リ難キトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ムベシ

第十七條 當選者當選ヲ辭シ、議員タル資格ヲ失ヒ、死亡シ又ハ當選ノ取消アリタル場合ニ於テ得票者ニシテ當

選者ト爲ラザリシモノアルトキハ會長ハ直ニ前條ノ例ニ依リ當選者ヲ定ムベシ

第十八條 當選者ナキトキ若ハ當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セザルトキ若ハ達セザルニ至リタルトキハ三月以内ニ更ニ選擧ヲ行フベシ選擧ノ取消アリタルトキ亦同ジ

第十九條 選擧後一年以内ニ議員ニ缺員ヲ生ジタル場合其ノ選擧ニ於テ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシモノアルトキハ會長ハ第十六條ノ規定ニ準ジ當選者ヲ定ムベシ

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルモ仍缺員ヲ生ジ又ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後缺員ヲ生ジタル場合ニ於テ其ノ缺員ガ議員定數ノ三分ノ一ヲ超ユルニ至リタルトキ又ハ會長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ補缺選擧ヲ行フベシ但シ議員ノ任期滿了前六月以内ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 前九條ニ規定スルモノノ外州廳農會ノ議員ノ選擧ニ關シ必要ナル事項ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第二十一條 州廳農會ノ議員ノ任期ハ其ノ就任ノ日ノ屬スル事業年度ノ初日ヨリ起算シ四年トス但シ補缺選擧其ノ他ノ事由ニ依リ議員ト爲リタル者他ノ議員ト就任ノ年度ヲ異ニスル場合ニ於テハ其ノ任期ハ他ノ議員ノ殘任期間トス

第二十二條 前條ノ規定ハ特別議員ノ任期ニ之ヲ準用ス

第二十三條 議員及特別議員ハ名譽職トス

第二十四條 總會ハ會長之ヲ招集ス

總會ヲ招集セントスルトキハ州廳農會ニ在リテハ招集ノ期日前十日目迄ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シ總會ヲ組織スル者ニ對シ其ノ通知ヲ發スベシ

前項ノ期間ハ會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ短縮スルコトヲ得

總會ハ會長之ヲ開閉ス

第二十五條 議長ハ總會ノ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉ス

第二十六條 總會ニ於テハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ別段ノ定アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 總會ノ會議ハ國語ヲ以テ用語トス

第二十八條 總會ハ之ヲ組織スル者半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ但シ臺灣農會令第二十八條ノ規定ニ依ル職務停止ノ爲出席者半數ニ滿タザルトキ、同一事項ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タザルトキ又ハ招集ニ應ズルモ出席者定數ヲ缺キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 總會ノ議決ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スベシ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ルベシ

第三十條 會則ノ變更竝ニ農會ノ合併、分割及解散ノ議決ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第三十一條 議長ハ議事錄ヲ作リ左ニ揭グル事項ヲ記載シ二人以上ノ出席者ト共ニ之ニ署名スベシ

一 開會ノ日時及場所

二 議員ノ定數及現員數竝ニ特別議員ノ現員數

三 出席者ノ數

四 議事ノ要領

五　議決シタル事項及賛否ノ數

第三十二條　前八條ニ規定スルモノノ外總會ニ關シ必要ナル事項ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三十三條　農會ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十四條　州廳農會地租ヲ標準トシテ經費ヲ賦課セントスルトキハ其ノ賦課率ハ會員ノ資格要件タル土地ノ地租額ノ百分ノ二十以內トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ其ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第三十五條　農會左ノ事業ヲ爲サントスルトキハ其ノ收支ハ各之ヲ特別トシ一般收支豫算ト區分經理スベシ

一　農產物及林產物ノ販賣斡旋

二　農業及林業ニ必要ナル物件ノ購買斡旋

三　基本金ノ範圍內ニ於テ會員ニ對シテ爲ス資金ノ融通

四　農業倉庫ノ經營

第三十六條　收支豫算及經費ノ分賦收入方法ノ認可申請書ハ前年度二月末日迄ニ之ヲ臺灣總督ニ差出スベシ但シ設立ノ年度ニ於テハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ差出スベシ

第三十七條　會則、收支豫算及經費ノ分賦收入方法ノ變更ノ認可申請書ニハ理由書ヲ添附スベシ

借入金ノ認可申請書ニハ理由書竝ニ用途、利率、期間、借入先及償還ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第三十八條　事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度內ニ總會ノ議決ヲ經テ遲滯ナク之ヲ臺灣總督ニ報告スルト共ニ會員ニ公示スベシ

前項ノ書類ニハ當該事業年度末日現在ニ依リ調製シタル財產目錄ヲ添附スベシ

第三十五條各號ノ事業ノ收支決算ニハ財產目錄ノ外貸借對照表ヲ添附スベシ

第三十九條　第二十一條ノ規定ハ役員ノ任期ニ之ヲ準用ス

第四十條　役員ハ名譽職トス但シ會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ有給ト爲スコトヲ得

第四十一條　農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ主事、技師、書記、技手其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

第四十二條　州廳農會經費又ハ過怠金ヲ徵收セントスルトキハ納入義務者ニ對シ納入ノ區分、納金額、納期日及納付ノ場所ヲ記載シタル納入告知書ヲ發スベシ

經費又ハ過怠金ノ徵收ヲ市街庄ニ囑託スル場合ニ於テハ前項ノ納入告知書ハ其ノ市街庄ニ之ヲ交付スベシ

第四十三條　經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ納入告知書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ農會ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第四十四條　前條ノ異議ノ申立アリタルトキハ會長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ遲滯ナク決定ヲ爲スベシ

前項ノ決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ謄本ヲ申立人ニ交付スベシ

第四十五條　前條ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ決定書ノ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ臺灣總督ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第四十三條第二項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條　臺灣農會令第二十四條第二項ノ交付金ハ徵收シタル金額ノ百分ノ二乃至百分ノ四ノ範圍內ニ於テ會

則ヲ以テ其ノ率ヲ定ムベシ

第四十七條 徴收ノ嘱託ヲ受ケタル經費又ハ過怠金ノ滯納者アルトキハ市街庄ハ直ニ其ノ氏名及滯納金額ヲ州廳農會ニ通知スベシ

第四十八條 市街庄臺灣農會令第二十五條ノ規定ニ依リ徴收金ノ納入義務ノ免除ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ州廳農會ニ之ヲ請求スベシ

前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ會長ハ評議員ノ意見ヲ徴シ其ノ決定ヲ爲スベシ

第四十九條 農會ノ解散ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

臺灣總督農會ノ解散ヲ認可シタルトキハ之ヲ告示ス

第五十條 農會ノ合併又ハ分割ニ關シテハ本令中農會ノ設立ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十一條 農會解散シ清算結了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨臺灣總督ニ届出ヅベシ

附 則

本令ハ昭和十二年律令第二十三號臺灣農會令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣農會規則施行規則ハ之ヲ廢止ス

臺灣農會規則又ハ臺灣農會規則施行規則ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ之ヲ臺灣農會令又ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

本令施行ノ際處分ヲ要スル農會ノ財產ニ付テハ其ノ處分方法ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クベシ

○各州農會規約（抄）

一 臺北州農會規約

第四章 會費ノ賦課徴收

第三十一條 本會ノ會費ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ賦課ス

一 地租ヲ負擔スル者地租百分ノ十以内但シ建物敷地雜種地及養魚池ニ課セラルル地租ニハ會費ヲ賦課セス

二 豚ヲ飼養シテ之ヲ屠殺シ又ハ屠殺ノ目的ヲ以テ賣却シタル者　一頭ニ付　金二十錢以内

三 牛ヲ飼養スル者　一頭ニ付　金七十錢以内

第三十二條 前條第一號ノ會費ハ毎年臺北州ニ於テ調定シタル前期地租額ニ依リ算定シ前期地租ノ納期ト同時ニ第二號ノ會費ハ其ノ事實發生シタル都度之ヲ徴收シ第三號ノ會費ハ毎年四月一日現在畜牛飼養頭數ニ依リ算定シ五月末日迄ニ之ヲ徴收ス

四月一日以降ニ於テ新ニ牛ヲ飼養スル者ニ對シテハ其ノ事實ノ生シタルトキ隨時會費ヲ徴收ス但シ出生ニ依ル場合ハ此ノ限リニアラス

前二項ノ會費徴收ノ場合ニハ告知書ヲ發ス

會費ノ算定上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ四捨五入ス

第三十三條 第三十一條第一號ノ會費負擔者ニシテ臺北州ニ於テ地租ヲ追徴セラレタル者ニ對スル會費ハ其ノ調

定額ニ依リ算定シ之ヲ追徴ス

二　新竹州農會規約

第四章　會費ノ賦課徴收

第三十一條　本會ノ會費ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ賦課ス

一　地租ヲ負擔スル會員ハ地租百分ノ十以內但シ建物敷地養魚池及雜種地ニ課セラルル地租ニハ會費ヲ賦課セス

二　牛畜一頭ニ付金八十錢以內

三　豚ヲ飼養スル會員ハ之ヲ肉用トシテ屠殺シ若ハ肉用ノ目的ヲ以テ賣却シタル場合ハ一頭ニ付金八十錢以內

第三十二條　前條第一號ノ會費ハ每年新竹州ニ於テ調定シタル地租額ニ依リ算定シ前期地租ノ納期ト同時ニ第二號ノ會費ハ每年四月一日現在ノ頭數ニ依リ算定シ前期戶稅ノ納期ト同時ニ之ヲ徵收シ第三號ノ會費ハ豚ヲ肉用トシテ屠殺シ又ハ賣却シタル會員ノ申告ニ依リ隨時徵收ス

前項ノ會費徵收ノ場合ニハ告知書ヲ發スルモノトス

會費ノ算定上一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切リ捨ツ但シ一人ノ負擔額ニシテ一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

三　臺中州農會規約

第四章　會費ノ賦課徵收

第二十八條　本會ノ會費ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ賦課ス

一　地租ヲ負擔スル會員ハ地租百分ノ十以內但シ建物敷地養魚池及雜種地ニ課セラルル地租ニハ會費ヲ賦課セス

二　官租地ヲ小作スル會員ハ官租ノ百分ノ一

三　畜牛ヲ飼養スル會員ハ一頭ニ付金五十五錢

四　豚ヲ飼養スル會員ハ之ヲ肉用トシテ屠殺シ又ハ肉用ノ目的ヲ以テ賣却スル場合ハ一頭ニ金四十錢以內

五　米ヲ生產シ又ハ米ヲ生產スル者ヨリ小作料ヲ受クル會員ハ其ノ生產シタル土地一甲一作ニ付自作者ニ在リテハ金一圓以內小作者又ハ小作料ヲ受クル者ニ在リテハ金五十錢以內但シ一甲當一作ノ籾ノ收量二千斤未滿又ハ陸稻ヲ作付タル土地ニ付テハ之ヲ賦課セス

前項第三號ノ會費ハ賣買交換讓與等ニ依リ新ニ飼養事實ヲ生シタルトキハ一頭ニ付金四十錢但シ定期調定後生產セシ犢ニ對シテハ當該年度ハ會費ヲ賦課セス

第二十九條　前條第一號及第二號ノ會費ハ每年臺中州ニ於テ調定シタル地租額及官租額ニ依リ算出シ前期地租官租ノ納期ト同時ニ第三號ノ會費ハ每年四月一日現在調ニ依リ算定シ前期戶稅ノ納期ト同時ニ徵收シ新ニ飼養事實ノ發生シタル場合ハ其ノ都度之ヲ徵收シ又第四號ノ會費ハ其ノ事實發生ノ都度之ヲ徵收シ第五號ノ會費ハ米ノ作付面積ニ依リ之ヲ調定シ後期戶稅ノ納期ト同時ニ徵收ス

四　臺南州農會規約

第四章　會費及手數料ノ賦課徵收

第三十一條　本會ノ會費及手數料ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ賦課ス

一　地租ヲ負擔スル會員ハ地租百分ノ十以内
二　牛畜ヲ飼養スル會員ハ一頭ニ付金五十錢以内
三　豚ヲ飼養スル會員ハ之ヲ食肉ノ目的ヲ以テ屠殺シ又ハ賣却スル場合ハ一頭ニ付金四十五錢以内

第三十二條　第三十一條第一號ノ會費ハ毎年臺南州ニ於テ調定シタル地租額ニ依リ算定シ前期地租ノ納期ト同時ニ第二號ノ會費ハ毎年四月一日現在頭數ニ依リ前期州稅ノ納期ト同時ニ第三號ノ會費ハ其ノ事實發生ノ都度之ヲ徵收ス

會費徵收ノ場合ニハ告知書ヲ發スルモノトス

會費算定上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切上ク

五　高雄州農會規約

第五章　會費ノ賦課徵收

第二十九條　本會ノ會費ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ賦課ス

一　地租ヲ負擔スル會員ハ地租ノ百分ノ十以内
二　牛ヲ飼養スル會員ハ牛（一歲未滿ヲ除ク）一頭ニ付七十錢以内
三　豚ヲ飼養スル會員ハ之ヲ肉用トシテ屠殺シ若クハ肉用ノ目的ヲ以テ賣却シタル場合牛繭整理手數料トシテ一頭ニ付二十錢以内
四　牛ヲ賣却、讓渡、交換、寄託、返還ノ爲轉出入セントスル場合ハ一頭ニ付二十錢以内

第三十條　前條第一號ノ會費ハ毎年高雄州ニ於テ調定シタル地租額ニ依リ前期地租納期ト同時ニ徵收シ第二號ノ會費ハ毎年四月一日現在前項ノ會費徵收ノ場合ハ告知書ヲ發スルモノトス

會費ノ算定上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ錢ニ切上クルモノトス會費ヲ期日内ニ納付セサルモノアルトキハ會長ハ直ニ督促狀ヲ發シ督促手數料トシテ二十錢ヲ徵收ス

○重要物産同業組合法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

大正十一年十二月二十九日
勅令第五百二十一號抄錄

第一條　左ニ揭クル法律ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

重要物産同業組合法

第二條　前條ノ法律中勅令トアルハ臺灣總督府令、國稅徵收法トアルハ臺灣土地收用規則トス

第三條　大正十一年勅令第四百七號第二條乃至第四條ノ規定ハ第一條ノ法律ノ施行ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル重要物産同業組合ハ重要物産同業組合法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

○重要物産同業組合法

明治三十三年三月七日
法律第三十五號

（改正）　大正五年法律第一五號

第一條　重要物產ノ生產、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要物產及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條　同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ增進スルヲ以テ目的ト爲ス

第三條　同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業每ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條　同業組合設置ノ地區內ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　同業組合及同業組合聯合會ハ法人トス

同業組合及同業組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ依ル

第八條　同業組合及同業組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一　組長　一名

一　副組長　若干名

一　評議員　若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ同業組合ニ於テハ組合員中ヨリ同業組合聯合會ニ於テハ聯合會ヲ組織スル同業組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選擧シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ必要アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選擧スルコトヲ得

第九條　組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任ス

副組長ハ組長ノ事務ヲ補佐シ組長故障アルトキ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應シ及業務施行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

副組長及評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組長副組長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

第十條　同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ檢查規定ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ檢查スルコトヲ得

同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ檢查規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十條ノ二　前條第一項ノ檢查ヲ行フ同業組合及同業組合聯合會ノ檢查員ノ選任及解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三　同業組合及同業組合聯合會ハ前條ノ檢查員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ四　農商務大臣ハ重要輸出品ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合會ノ申請アルトキ又ハ必要ト認ムルトキハ其ノ役員又ハ檢査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル役員ノ解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

重要輸出品ノ種類ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十一條　同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算竝徵收法ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務成績ハ每年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條　同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其ノ諮問アルトキハ答申スヘシ

第十三條　農商務大臣ハ同業組合又ハ同業組合聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財產ノ狀況ヲ檢査シ經費ノ豫算又ハ其ノ徵收法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條　農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類若ハ定款ノ變更ヲ命シ又ハ同業組合聯合會ヘノ加入若ハ同業組合聯合會ヨリノ脫退ヲ命スルコトヲ得

第十五條　同業組合若ハ同業組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其ノ目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　同業組合若ハ同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

二　役員ノ解職

三　決議ノ取消

第十六條　同業組合若ハ同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　地方長官ハ其ノ管內ニ於ケル同業組合及同業組合聯合會ヲ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ處分ヲ請フヘシ

第十八條　農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十九條　第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ二　同業組合及同業組合聯合會ノ役員第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ三　同業組合及同業組合聯合會ノ役員檢査員其ノ他事務ニ從事スル者正當ノ理由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ之ヲ忌避シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ四　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十條　同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ檢查證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ檢查證ヲ僞造若ハ變造シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢查證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ二　同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員又ハ檢査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス

第二十條ノ三　前條第一項ニ揭クル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十條ノ四　第二十條ニ揭クル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第二十條ノ二ニ揭クル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附　則

第二十一條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

第二十二條　重要輸出品同業組合法ニ依リテ設立シタル組合及聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十三條　他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ準用スヘキモノト定メタル場合ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ規定ヲ準用シ重要輸出品同業組合法中ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ之ニ相當スル本法ノ規定ヲ準用ス

附　則　（大正五年法律第十五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正五年勅令第百二十三號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法施行前選任セラレタル檢査員ニ付テハ本法施行後一月內ニ其ノ選任ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ期間內ニ認可ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ期間滿了ノ日、申請ニ對シ不認可ノ指令アリタルトキハ其ノ指令ノ日ニ於テ檢査員ハ解任セラレタルモノト看做ス

檢査員ハ前項解任ノ日迄從前ノ例ニ依リ職務ヲ行フコトヲ得

前三項ノ規定ハ本法ニ依リタル他ノ法律ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ニ關シ之ヲ準用ス

刑法施行法第二十七條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　削除

○重要物產同業組合法施行規則

大正十二年一月一日
府令第一號

（改正）　大正一四年府令第八八號

第一條　同業組合ノ名稱中ニハ同業組合ナル文字ヲ用ウヘシ

同業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ同業組合ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第二條　組合ノ地區ハ一郡市又ハ一支廳以上一州廳以下ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　組合ヲ設置セムトスルトキハ五人以上ノ營業者發起人ト爲リ組合地區ヲ管轄スル知事又ハ廳長ニ發起ノ

認可ヲ申請スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一　組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ其ノ營業ノ種類毎ニ之ヲ區別スヘシ

二　組合ノ地區

三　組合ノ目的及業務ノ概目

四　組合設置ノ事由

五　組合員タルヘキ者ノ數但シ組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ其ノ營業ノ種類毎ニ之ヲ區別スヘシ

六　組合ノ創立費及收支ノ概算

地區二以上ノ州廳ニ亙ルトキハ事務所豫定地ノ知事又ハ廳長ヲ經テ發起ノ認可ヲ臺灣總督ニ申請スヘシ

事務所豫定地ヲ變更シタルトキハ前豫定地ノ知事又ハ廳長ヲ經テ其ノ旨臺灣總督ニ屆出ツヘシ

第四條　發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ組合員タルヘキ者ニ前條第二項ニ揭クル事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ

第五條　法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作リ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第六條　定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ前項ノ同意ハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ナルコトヲ要ス

第七條　創立總會ニ於テハ役員ヲ選擧シ最初ノ事業年度ノ經費豫算及徵收法ヲ議定スヘシ

第八條　組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第九條　第十九條第一項第二十條第二十二條第二項第三項及第二十七條ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第十條　創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類、定款及創立總會ノ決議錄謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可ヲ臺灣總督ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ認可シタルトキハ第十三條第一項第一號乃至第五號ニ揭クル事項ヲ告示ス

第十一條　發起人發起ノ認可アリタル後六月內ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ知事又ハ廳長ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地區二以上ノ州廳ニ亙ルトキハ臺灣總督發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十二條　臺灣總督組合ノ設置ヲ命シタルトキハ知事又ハ廳長ハ創立委員ヲ選定シ其ノ氏名及住所ヲ公告スヘシ

創立委員ハ定款ヲ作リ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

組合ノ設置アリタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク組合員ノ總會ヲ招集スヘシ

第五條第二項第七條第八條第十九條第一項第二十條及第二十二條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ總會ニ之ヲ準用ス

第十三條　組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　目的

二　業務
三　名稱
四　地區及組合員ノ營業ノ種類
五　主タル事務所及從タル事務所ノ所在地
六　組合員ノ加入脫退ニ關スル規定
七　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
八　役員ノ定數、權限及選任竝解任ニ關スル規定
九　業務ノ執行ニ關スル規定
十　會議ニ關スル規定
十一　會計ニ關スル規定

仲裁判斷又ハ調停ヲ爲ス組合ニ在リテハ之ニ關スル規定ヲ定款ニ記載スヘシ

聯合會ヲ組織スル組合ノ定款ニハ代表員ノ選擧ニ關スル規定ヲ記載スヘシ

第十四條　定款ニ主タル事務所ノ位置ヲ記載セサル組合ニ在リテハ之ヲ臺灣總督ニ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十五條　組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合員中ヨリ選擧シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織ス

代議員ノ定數、任期及選擧ニ關スル規定ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

知事又ハ廳長必要ト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ代議員ノ選定ヲ爲スコトヲ得

第十六條　組合ノ業務ハ組合會ノ決議ニ依リ組長之ヲ行フ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　組長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ每事業年度少クトモ一回一定ノ時期ニ於テ組合會ヲ招集スヘシ

組長必要ト認ムルトキハ組合會ヲ臨時ニ招集スルコトヲ得

代議員定數ノ五分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ組合會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長ハ之ヲ招集スヘシ評議員會カ第二十四條第二號ノ規定ニ依リ報告ヲ爲ス爲組合會ノ招集ヲ請求シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間內ニ組合會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條　組合會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シテ定款ノ定ムル方法ニ依リ其ノ通知ヲ發スヘシ

前項ノ期間ハ定款ノ規定ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十九條　組合會ニ於テハ代議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

同一事項ニ付招集シタル第二回以後ノ組合會ニ於テ代議員ノ定數三分ノ一以上出席スルトキハ會議ヲ開クコトヲ得

第二十條　組合會ノ議決ハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十一條　定款ノ變更ハ組合會ニ於テ代議員ノ定數三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

地區又ハ組合員ノ營業ノ種類ノ增減ニ關スル定款ノ變更ハ前項ノ決議ノ外編入又ハ削除セラルヘキ區域若ハ營

業ノ種類ニ屬スル組合員タルヘキ者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

定款變更ノ認可申請書ニハ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面及決議錄謄本竝第二項ノ場合ニ於テハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第二十二條 組合員ノ少數ナル組合ニ在リテハ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フルコトヲ得

總會ニ於ケル各組合員ノ表決權ハ平等トス

總會ニ出席セサル組合員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

組合會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第二十三條 組合ニ評議員會ヲ置ク但シ組合員少數ナル組合ニ在リテハ評議員會ヲ置カサルコトヲ得

評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十四條 評議員會ノ職務權限左ノ如シ

一 組長ヨリ組合會ニ提出スル議案ヲ審査シ組長ニ對シ意見ヲ述フルコト

二 組合ノ財產及業務ノ狀況ヲ監査シ每事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告スルコト

三 組長ノ諮詢ニ應スルコト

四 其ノ他定款ノ規定ニ依リ其ノ職務權限ニ屬スル事項

第二十五條 評議員會ハ組長之ヲ招集ス

評議員ノ三分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長ハ之ヲ招集スヘシ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間內ニ評議員會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十六條 第十九條及第二十條ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第二十七條 組合會總會及評議員會ノ議長ハ決議錄ヲ作リ左ノ事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ記名捺印スヘシ

一 開會ノ日時及場所

二 代議員若ハ評議員ノ定數又ハ組合員ノ數

三 出席者ノ員數

四 議事ノ要領

五 議決シタル事項

六 贊否ノ數

第二十八條 組合ノ役員及檢查員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第二十九條 組合ハ檢查員ノ資格、選任、解任及給與ニ關スル規定ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十條 組合ノ檢查員ノ服務ニ關スル規定中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

組合ノ檢査員ノ職務ヲ停止シ又ハ給與ヲ減額セムトスルトキハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 組合ノ役員及檢査員ノ解任認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十二條 組合ノ事業年度ハ一年トス

第三十三條 組合經費ノ豫算及徵收法ノ認可申請ハ事業年度二月前ニ經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ事業年度後三月內ニ之ヲ爲スヘシ

第三十四條 組合ニ於テ定款ノ施行ニ關スル規定ヲ設ケタルトキハ臺灣總督ニ之ヲ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十五條 役員ノ缺ケタル場合ニ於テ補缺選擧ノ手續ヲ行フ者ナキトキハ知事又ハ廳長ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第三十六條 組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ其ノ淸算人トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ組合會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

淸算人ハ其ノ氏名住所ヲ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

第三十七條 前條ノ規定ニ依リテ淸算人タル者ナキトキハ知事又ハ廳長ハ淸算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十八條 淸算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ知事又ハ廳長ハ淸算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十九條 淸算カ結了シタルトキハ淸算人ハ其ノ結果ヲ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

第四十條 聯合會ヲ設置若ハ解散シ之ニ加入シ又ハ之ヨリ脫退セムトスルニハ組合會ノ決議ニ依ルヘシ

前項ノ決議ハ代議員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

脫退ニ關スル組合會ノ決議ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 聯合會ヲ設置セムトスルトキハ聯合會ヲ組織スヘキ組合ハ組合會若ハ總會ニ於テ創立委員ヲ選定スヘシ

創立委員ハ創立委員會ヲ開キ全員ノ同意ヲ以テ定款ノ作成其ノ他必要ナル事項ヲ議定スヘシ

創立委員會ヲ終リタルトキハ創立委員ハ定款其ノ他議定シタル事項ノ認可申請書ニ各組合ノ創立委員選定ニ關スル決議錄謄本及創立委員會ノ決議錄謄本ヲ添附シ臺灣總督ニ提出スヘシ

聯合會ノ定款ニハ第十三條第一項第一號乃至第三號第五號第八號乃至第十一號ニ揭クル事項竝所屬組合ノ名稱加入脫退權利義務代表員ノ定數及任期ニ關スル規定ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十二條 聯合會ニ總會ヲ置ク

總會ハ所屬組合ノ代表員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十三條 第一條第十二條第十三條第二項第十四條第十六條乃至第二十條第二十一條第一項第四項及第二十三條乃至第三十九條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十七條第四項第三十條第二項第三十七條及第三十八條ノ規定ニ依ル知事又ハ廳長ノ處分ハ臺灣總督之ヲ行ヒ第三十六條第二項及第三十九條ノ屆出ハ臺灣總督ニ之ヲ爲スヘシ

第四十四條 知事又ハ廳長ハ組合又ハ聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ業務ノ執行若ハ財產ノ狀況

ヲ檢査スルコトヲ得

第四十五條 組合ニ關シ左ニ揭クル事項ハ之ヲ知事又ハ廳長ニ委任ス

一 役員、檢査員ノ選任及解任ノ認可

二 重要物產同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル役員若ハ檢査員ノ選任又ハ解任

三 同法第十條ノ四第二項ノ規定ニ依ル役員解任ノ認可

四 檢査員ノ服務ニ關スル規定ノ認可

五 同法第十五條第二號及第三號ノ處分

第四十六條 知事又ハ廳長ハ第三條第一項第十一條第一項第三十條第二項第三十七條第三十八條及前條ノ規定ニ依リ處分シタルトキ又ハ第三十六條第二項及第三十九條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ臺灣總督ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第四十七條 地區二以上州廳ニ亙ルトキノ知事又ハ廳長ハ主タル事務所所在地ノ知事又ハ廳長トス

附 則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

○米穀統制法施行規則

昭和八年十月二十四日
農林省令第二十號

（改正） 昭和一二年第二號、第二四號

第一條 米穀生產費ノ調查ハ水稻ニ付之ヲ行フ

第二條 米穀生產費ノ調查ハ各道府縣（沖繩縣ヲ除ク）ニ於ケル左ニ揭グル要件ヲ具備スル自作農又ハ小作農ニシテ每年地方長官ノ推薦ニ基キ農林大臣ニ於テ選定シタルモノニ付之ヲ行フ

一 主要米產地ニ於テ其ノ地方ニ普及セル品種ノ水稻作ヲ主業トスルコト

二 段當收量中位ナルコト

三 經營ノ規模中位ナルコト

四 中庸ナル生產費ヲ得ルニ不適當ナル事情ナキコト

第三條 米穀統制法施行令第四條第二項第一號ノ種籾代ハ選種當時ニ於ケル種籾原料ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ算定ス但シ購入シタル種籾原料ニ付テハ其ノ購入代金其ノ他購入ニ要シタル費用ニ依ル

第四條 米穀統制法施行令第四條第二項第二號ノ肥料代ハ購入シタル肥料ニ付テハ其ノ購入代金其ノ他購入ニ要シタル費用ニ依リ、購入セザル肥料ニ付テハ市價アルモノハ施肥當時ニ於ケル市價ニ依リ、市價ナキモノハ別ニ定ムル肥料成分ノ價格ニ依リ之ヲ算定ス

第五條 米穀統制法施行令第四條第二項第三號ノ勞賃ハ日雇勞働及季節雇勞働ニ付テハ賃銀及實物給與ノ評價額ノ合計金額ニ依リ、自家勞働及之ニ準ズル勞働竝ニ年雇勞働ニ付テハ作業當時ニ於ケル當該地方ノ通常ノ日雇勞賃ニ依リ之ヲ算定ス

第六條 米穀統制法施行令第四條第二項第四號ノ畜力費ハ使役當時ニ於ケル當該地方ノ同種類ノ家畜ノ通常ノ賃借料ニ依リ之ヲ算定ス但シ賃借シタル家畜ニ付テハ其ノ賃借料（實物給與ノ評價額ヲ含ム）ニ依ル

第七條　米穀統制法施行令第四條第二項第五號ノ諸材料費ハ左ニ揭グル材料ニ付購入シタルモノニ在リテハ其ノ購入代金其ノ他購入ニ要シタル費用ニ依リ、購入セザルモノニ在リテハ市價アルモノハ市價ニ依リ、市價ナキモノハ其ノ評價額（原料費、勞賃等ニ依リ評價ス）ニ依リ之ヲ算定ス

一　選種用材料
二　病蟲害驅除豫防用材料
三　器具機械用材料
四　包裝用材料
五　前各號ニ準ズル用途ニ使用セラレタル材料

第八條　米穀統制法施行令第四條第二項第六號ノ農舍費ハ農舍（住宅、納屋、作業場、肥料舍、倉庫其ノ他ノ工作物ヲ謂フ以下同ジ）ニ付テハ其ノ減價額及修繕費ノ合計金額ニ米作負擔割合ヲ乘ジタルモノニ依リ、農舍敷地（乾場其ノ他農舍ノ附屬地ヲ含ム以下同ジ）ニ付テハ其ノ地代（類地ノ賃借料ニ依リ評價ス）ニ米作負擔割合ヲ乘ジタルモノニ依リ之ヲ算定ス但シ賃借シタル農舍又ハ農舍敷地ニ付テハ其ノ賃借料ニ米作負擔割合ヲ乘ジタルモノニ依ル

前項ノ減價額ハ各農舍ニ付當該年ニ於テ行ヒタル評價額ヲ維持見込年數ヲ以テ除シタルモノトシ前項ノ修繕費ハ通常ノ年當修繕費トス

第一項ノ米作負擔割合ハ各農舍又ハ農舍敷地ガ米ノ生產ニ供セラレタル割合ニ依リ之ヲ定ム

第九條　米穀統制法施行令第四條第二項第七號ノ農具費ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ算定ス

一　農林大臣ノ指定スル農具（甲農具）ニ付テハ其ノ減價額及修繕費ノ合計金額ニ米作負擔割合ヲ乘ジタルモノニ依ル但シ賃借シタルモノニ付テハ其ノ賃借料ニ米作負擔割合ヲ乘ジタルモノトス

一　前號以外ノ農具（乙農具）ニ付テハ當該年ニ於テ新調シタルモノニ在リテハ其ノ減價額ハ當該年ニ於ケル修繕費ノ合計金額ニ米作負擔割合ヲ乘ジタルモノニ依リ、當該年前ニ於テ新調シタルモノニ在リテハ當該年ニ於ケル修繕費ニ米作負擔割合ヲ乘ジタルモノニ依ル

前項第一號ノ減價額ハ當該年ニ於テ新調シタル農具ニ在リテハ其ノ新調ニ要スル費用及當該年數ヲ以テ、當該年前ニ於テ新調シタルモノニ在リテハ當該年ニ於テ其ノ新調ニ要スル費用見込金額ヲ新調農具ノ維持見込年數ヲ以テ除シタルモノトシ同項同號ノ修繕費ハ通常ノ年當修繕費トス

第一項ノ米作負擔割合ハ各農具ノ米ノ生產ニ供セラレタル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十條　米穀統制法施行令第四條第二項第八號ノ租稅ハ其ノ他ノ公課ノ金額ニ米作負擔割合ヲ乘ジテ之ヲ算定ス

一　田租及其ノ附加稅竝ニ田ニ對スル段別割、特別地稅及其ノ附加稅
二　家屋稅及其ノ附加稅
三　雜種稅
四　戶數割
五　水利組合費
六　農會費

前項ノ米作負擔割合ハ前項第一號ノ租稅及第六號ノ農會費中地租割又ハ段別割ニ依リ賦課セラルルモノニ在リテハ米作粗收入ノ米作及裏作粗收入ニ對スル割合ニ依リ、同項第二號、第三號及第五號ノ租稅其ノ他ノ公課ニ在リテハ家屋其ノ他ノ課稅物件（水利組合費ニ在リテハ組合費賦課ノ標準ト爲リタル物件）ガ米ノ生產ニ供セラレタル割合ニ依リ、同項第六號ノ農會費中會員割ニ依リ賦課セラルルモノニ在リテハ米作粗收入ノ農業經營ニ基ク粗收入ニ對スル割合ニ依リ、同項第四號ノ戶數割ニ在リテハ米作粗收入ノ總粗收入ニ對スル割合及田地資產ノ總資產ニ對スル割合ヲ當該市町村ニ於ケル戶數割ノ納稅義務者ノ所得額ニ依ル賦課金額ト資產ノ狀況ニ依ル賦課金額トノ割合ニ依リ加重シテ平均シタル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十一條 米穀統制法施行令第四條第二項第九號ノ部落協議費又ハ之ニ準ズルモノハ部落協議費又ハ農事實行組合、農家小組合其ノ他ノ組合ノ組合費トシテ賦課セラルル米作ノ爲ノ水利費又ハ病蟲害驅除豫防費タル金額トス

第十二條 米穀統制法施行令第四條第二項第十號ノ土地資本利子ハ類地ノ通常小作料ノ評價額ニ米作負擔割合ヲ乘ジタルモノヨリ第十條ノ規定ニ依リ算定セラルル租稅其ノ他ノ公課（同條第一項第二號乃至第四號ノ租稅竝ニ第六號ノ農會費中會員割ニ依リ賦課セラルルモノヲ除ク）ノ金額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

前項ノ米作負擔割合ハ米作粗收入ノ米作及裏作粗收入ニ對スル割合ニ依リ之ヲ定ム

第一項ノ通常小作料ノ評價ハ當該地方ニ於ケル米穀ノ收穫終了當時ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ行フ

第十三條 米穀統制法施行令第四條第二項第十一號ノ小作料ハ實納小作料ノ評價額（納入費用ヲ含ム）ヨリ奬勵金額又ハ奬勵米ノ評價額ヲ控除シタルモノニ米作負擔割合ヲ乘ジテ之ヲ算定ス

前項ノ實納小作料及奬勵米ノ評價ハ收穫終了當時ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ行フ

第一項ノ米作負擔割合ハ米作粗收入ノ米作及裏作粗收入ニ對スル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十四條 米穀統制法施行令第四條第二項第十二號ノ米穀檢查手數料ハ調查農家ノ生產シタル米穀ニ付道府縣ノ行フ生產及移出ニ關スル檢查ヲ受クル場合ニ於テ徵收セラルル一石當檢查手數料ニ米穀收量ヲ乘ジテ之ヲ算定ス

第十五條 米穀統制法施行令第四條第二項ノ副收入ハ收穫終了當時ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ算定ス

第十六條 米穀統制法施行令第四條第二項ノ米穀收量ハ包裝シタル玄米ノ容量ニ依リ之ヲ算定ス

第十七條 第二條ノ規定ニ依リ選定セラレタル者ハ別ニ配布スル帳簿又ハ用紙ニ依リ米穀統制法施行令第四條第二項各號ニ揭グル事項竝ニ副收入及米穀收量ニ關シ記帳ヲ爲シ地方長官ヲ經由シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

第十八條 第二條ノ規定ニ依リ選定セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ地方長官ノ報告ニ基キ前條ノ規定ニ依ル記帳ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

一 自作農又ハ小作農トシテ選定セラレタル者ガ自作農又ハ小作農タラザルニ至リタルトキ

二 經營面積、家族ノ勞働力其ノ他經營ノ規模ニ著シキ變動アリタルトキ

三 中庸ナル生產費ヲ得ルニ著シク不適當ナル事情ヲ生ジタルトキ

第十九條 米穀統制法施行令第一條第二項ノ當該年產ノ內地米トハ翌年十一月一日以後最低價格及最高價格ノ公定ニ至ル迄ハ次年產ノ內地米トス

第二十條 米穀統制法施行令第二條第二項及第三條第二項ノ米價指數ト物價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出スル價格（物

價參酌値）ハ明治三十三年十一月一日以後各米穀年度ニ於ケル米價指數ノ物價指數ニ對スル割合（米價率）ヨリ附錄ニ定ムル算式ニ依リ算出シタル當該米穀年度ノ米價率ノ趨勢値ヲ當該米穀年度ノ十一月ノ物價指數ニ乘ジタルモノヲ十一圓八十一錢ニ乘ジテ之ヲ算出ス但シ米穀統制法施行令第七條ノ規定ニ依リ最低價格又ハ最高價格ヲ改定スル場合ニ於テ參酌スベキ物價參酌値ニ付テハ米價率ノ趨勢値ヲ乘ズベキ物價指數ハ改定ノ月ノ前月ノ物價指數トス

米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ若ハ生ズルノ虞アル場合ニ於ケル最低價格又ハ最高價格ノ改定ニ在リテハ米價率ノ趨勢値ヲ乘ズベキ物價指數ハ前項但書ノ規定ニ拘ラズ改定前ノ最低價格又ハ最高價格ノ決定ニ付米價率ノ趨勢値ヲ乘ジタル物價指數ト爲スコトヲ得

第一項ノ米價指數及物價指數ハ日本銀行ノ行ヒタル卸賣物價ニ關スル調査ニ依リ之ヲ算定ス

第二十一條 物價ノ變動著シキ場合ニ於テ米穀統制法施行令第七條第一項ノ規定ニ依リ最低價格又ハ最高價格ヲ改定スルハ物價指數ガ最低價格又ハ最高價格ノ決定ニ付米價率ノ趨勢値ヲ乘ジタル物價指數ニ比シ五分以上變動シタルトキニ限ル

第二十二條 米穀統制法施行令第二條第一項ノ最低價格ハ同條第二項ノ規定ニ依リ定メタル標準最低價格ヲ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ノ米穀ノ最低價格ヲ總平均シタルモノニ該當スルモノトシ指定銘柄等級中標準ト爲スベキ米穀ニ對スル他ノ指定銘柄等級ノ米穀ノ格差ニ依リ指定銘柄等級中標準ト爲シ出シ之ニ對スル格差ニ依リ各銘柄及等級ノ米穀毎ニ之ヲ定ム

第二十三條 米穀統制法施行令第六條第一項ノ規定ニ依リ白米一石當價格ヲ玄米一石當價格ニ換算スル場合ニ於テハ其ノ換算ハ家計調査施行規則第一條ノ家計費ノ調査期間內ニ於ケル玄米價格ノ白米價格ニ對スル割合ヲ白米一石當價格ニ乘ジテ之ヲ行フ

第二十四條 米穀統制法施行令第五條ノ規定ニ依ル運賃諸掛ハ同條各號ニ揭グル費用ノ合計額ヲ道府縣ヨリ移出セラルル米穀ノ數量ニ依リ加重シテ平均シ之ヲ算出ス

第二十五條 米穀統制法第三條ノ賣渡又ハ買入ノ申込ヲ爲サントスル者ハ樣式第一號ニ依ル賣渡申込書又ハ樣式第二號ニ依ル買入申込書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第二十六條 農林大臣前條ノ申込ヲ受ケ買入又ハ賣渡ヲ決定シタルトキハ受渡ノ場所及期日ヲ定メ申込者ニ之ヲ通知ス

申込者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク請書ヲ提出スベシ

第二十七條 最低價格ニ依ル買入米穀ハ道府縣ノ移出檢查又ハ之ニ準ズル檢查ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

前項ノ受入檢查ニ對シテハ賣渡人ハ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ

第二十八條 最低價格ニ依ル賣渡又ハ最高價格ニ依ル買入ノ申込ハ同一銘柄百俵（叺）以上ニシテ同一ノ等級及粒種ノモノ二十俵（叺）以上タルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 道府縣米穀ノ貸付ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

一 貸付ヲ受ケントスル米穀ノ數量

二　貸付米ノ受渡及返還ノ時期
三　米穀ノ貸付ヲ受ケントスル理由
四　道府縣ヨリ米穀ノ貸付又ハ賣渡ヲ受クベキ者ノ名稱及之ニ對スル道府縣ノ貸付又ハ賣渡ノ計畫
五　前號ノ貸付又ハ賣渡ニ關スル規程又ハ條件
六　道府縣ヨリ米穀ノ貸付又ハ賣渡ヲ受ケタル者ノ其ノ米穀ノ處分ニ關スル計畫
前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第三十條　農林大臣前條ノ申請ヲ爲シタル道府縣ニ米穀ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ貸付米及返還米ノ種類、數量、受渡期日、受渡場所、受渡方法其ノ他必要ナル事項ヲ定メ道府縣ニ之ヲ通知ス

第三十一條　道府縣前條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル事項ニ異議ナキトキハ遲滯ナク農林大臣ニ請書ヲ提出スベシ

第三十二條　道府縣米穀ノ貸付ヲ受ケタル後第二十九條第一項第四號又ハ第五號ニ揭グル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ承認ヲ受クベシ

第三十三條　道府縣貸付ヲ受ケタル米穀ヲ貸付シ又ハ賣渡シタルトキハ其ノ結果ヲ遲滯ナク農林大臣ニ報告スベシ

第三十四條　米穀統制法第七條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

一　生產地
二　種類別數量
三　用途
四　輸入ノ場合ニ在リテハ積出港及輸入港、輸出ノ場合ニ在リテハ輸出港及陸揚港
五　輸入又ハ輸出ノ時期

前項第二號ノ種類別數量ハ銘柄別、年產別、糙又ハ糯ノ別、籾又ハ白米ノ別及丸粒又ハ碎米ノ別毎ニ之ヲ記載スベシ

第三十五條　農林大臣必要アリト認ムルトキハ米穀輸入許可申請書ノ提出時期ヲ指定スルコトヲ得
前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

自家用其ノ他特別ノ事由ニ依リ米穀ヲ輸入セントスル者ハ第一項ノ指定ニ拘ラズ隨時米穀輸入許可申請書ヲ提出スルコトヲ得

第三十六條　米穀ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者第三十四條第一項各號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三十七條　米穀統制法施行令第十九條第一項第一號ノ場合ニ於テ米穀ヲ輸入又ハ輸出スル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル書面ヲ其ノ輸入又ハ輸出ノ手續ヲ爲スベキ稅關ニ提出スベシ

一　輸入ノ場合ニ在リテハ生產地、輸出ノ場合ニ在リテハ陸揚港
二　種類別數量

米穀ヲ輸入スル者ノ提出スル前項ノ書面ニハ生產地又ハ輸出地ノ帝國領事館、帝國領事館ナキトキハ其ノ地ノ

官廳公署又ハ商工會議所ノ證明アルコトヲ要ス

米穀ヲ輸出スル者ハ契約書其ノ他ノ書類ニ依リ第一項各號ニ揭グル事項ノ眞實ナルコトヲ證明スベシ

第一項第二號ノ種類別數量ハ第三十四條第二項ノ規定ニ準ジ之ヲ記載スベシ

米穀統制法施行令第十九條第一項第二號ノ場合ニ於テ米穀ヲ輸入又ハ輸出スル者ハ其ノ輸入又ハ輸出ノ手續ヲ爲スベキ稅關ニ契約書其ノ他ノ書類ヲ示シ其ノ米穀ガ政府ノ委託ニ依リ輸入又ハ輸出セラルルモノナルコトヲ證明スベシ

第三十八條 米穀統制法施行令第十九條第一項第三號ニ規定スル米穀ノ範圍左ノ如シ

一 外國貿易船ガ沿海通航船ト爲リ又ハ沿海通航船ガ外國貿易船ト爲リタル場合ニ於テ輸入又ハ輸出セラルル船用品タル米穀

二 帝國內ニ於テ外國貿易船ニ積込マルル船用品タル米穀

三 標本米又ハ見本米ニシテ郵便物タルモノ

四 旅客ノ携帶品タル米穀ニシテ百斤ヲ超エザルモノ

第三十九條 米穀現在高調査ハ每年三月一日、五月一日、七月一日、八月一日、九月一日及十一月一日各午前零時現在ニ於テ內地ニ現在スル米穀ニ付之ヲ行フ但シ左ニ揭グル米穀ニ付テハ之ヲ行ハザルモノトス

一 調査期日ニ於テ保稅地域及外國貿易船ニ現在スル米穀

二 內地米、朝鮮米及臺灣米ノ碎米

三 八月一日、九月一日及十一月一日現在ノ調査ニ在リテハ其ノ年八月一日ヨリ十月三十一日迄ノ間ニ生產セラレタル內地米

前項ノ調査ハ內地米、朝鮮米及臺灣米ニ在リテハ籾、玄米及白米ニ區分シ、外國米ニ在リテハ籾、玄米、白米及碎米ニ區分シテ之ヲ行フ

第四十條 左ニ揭グル倉庫ノ管理者ハ其ノ倉庫ニ現在スル米穀ニシテ前條ノ規定ニ依リ調査セラルベキモノノ數量ニ付地方長官ニ對シ樣式第三號ニ依リ申告ヲ爲スベシ

一 倉庫營業者ノ倉庫

二 運送營業者、運送取扱營業者又ハ銀行ノ倉庫

三 農業倉庫又ハ聯合農業倉庫

四 前各號ノ外農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ之ニ準ズルモノニシテ地方長官ノ指定シタルモノノ倉庫

第四十一條 第三十九條ノ規定ニ依リ調査セラルベキ米穀ニシテ左ニ揭グル場所ニ現在スルモノハ米穀現在高調査員ニ於テ之ヲ調査スベシ

一 米穀生產者又ハ耕地所有者ノ倉庫、納屋其ノ他ノ貯藏場所

二 米穀販賣業者又ハ精米業者ノ店舖、精米場又ハ倉庫其ノ他ノ貯藏場所

三 正米市場又ハ之ニ準ズル市場ノ營業所又ハ倉庫

四 社寺又ハ之ニ準ズルモノノ貯藏場所

五 品評會、共進會等ノ會場

六 鐵道若ハ軌道ノ驛又ハ地方鐵道若ハ軌道ノ貨車其ノ他ノ運搬具

七　河川港灣ニ於ケル繫船岸壁、棧橋、物揚場、上屋又ハ船舶

第四十二條　米穀移動調査ハ米穀移動高調査及米穀販賣高調査ノ二種トス

米穀移動高調査ハ道府縣ヨリ該地域外ニ輸出又ハ移出セラルル米穀及該地域外ヨリ當該道府縣ニ輸入又ハ移入セラルル米穀ニ付之ヲ行フ

米穀販賣高調査ハ米穀生產者ノ生產シタル米穀及土地ニ付權利ヲ有スル者ノ小作料トシテ受ケタル米穀ニシテ販賣セラルルモノニ付之ヲ行フ

第四十二條ノ二　米穀移動高調査ハ米穀ノ產地別、種類別及仕向地又ハ仕出地別ニ區分シ產地別ハ道府縣、朝鮮、臺灣及外國別ニ、種類別ハ籾、玄米、白米及碎米別（內地米ニ付テハ碎米ハ之ヲ除ク）ニ、仕向地別又ハ仕出地別ハ道府縣、朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島及外國別ニ區分シテ之ヲ行フ

前項ノ產地別調査ニ於テ當該道府縣產米ノ移出ニ付テハ銘柄別ニ之ヲ行フ

第四十三條　地方長官ハ稅關及稅關支署ニ就キ輸出又ハ輸入セラレタル每月ノ米穀數量ヲ調査スベシ

第四十四條　運送取扱營業者（船舶ニ依ル運送營業者ヲ含ム）ハ其ノ取扱ヒタル米穀ニシテ道府縣ヨリ他ノ道府縣ニ移出シ又ハ他ノ道府縣ヨリ當該道府縣ニ移入シタルモノニ付每月ノ數量ヲ樣式第四號ニ依リ地方長官ニ申告ヲ爲スベシ直接運送ノ引受ヲ爲シタル運送營業者（船舶ニ依ル運送營業者ヲ含ム）ニ付亦同ジ

內地ヨリ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ移出セラレ又ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ヨリ內地ニ移入セラルル米穀ニ付テハ移出ノ場合ニ在リテハ船積ヲ爲シタル運送取扱營業者、移入ノ場合ニ在リテハ陸揚ヲ爲シタル運送取扱營業者又ハ運送營業者ニ於テ其ノ數量ヲ前項ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

離島又ハ特殊ノ地域ヨリ他ノ道府縣ニ移出セラレ又ハ他ノ道府縣ヨリ當該地域內ニ移入セラルル米穀ニ付テハ地方長官ハ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル運送取扱營業者又ハ運送營業者ヲシテ前項ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十五條　道府縣ヨリ當該道府縣外ニ移出セラレ又ハ當該道府縣內ニ移入セラルル米穀ニシテ運送取扱營業者又ハ運送營業者ノ取扱ハザルモノハ米穀移動高調査員ニ於テ之ヲ調査スベシ

第四十五條ノ二　米穀販賣高調査ハ水稻米ニ付粳糯別竝ニ籾、玄米及白米別ニ區分シテ之ヲ行フ

第四十五條ノ三　米穀販賣高調査ハ市町村ノ區域ヲ單位トシ當該調査區域內ニ於テ生產セラレタル米穀ニ付左ノ區分ニ依リ之ヲ行フ

一　米穀生產者ノ生產シタル米穀ニシテ其ノ者ノ販賣ニ係ルモノ但シ第三號ニ該當スルモノヲ除ク

二　土地ニ付權利ヲ有スル者ノ小作料トシテ受ケタル米穀ニシテ其ノ者ノ販賣ニ係ルモノ但シ第四號ニ該當スルモノヲ除ク

三　米穀生產者ノ生產シタル米穀ニシテ產業組合、農業倉庫業者、米穀統制組合又ハ農會ガ委託ヲ受ケ販賣シ又ハ販賣ヲ斡旋シタルモノ

四　土地ニ付權利ヲ有スル者ノ小作料トシテ受ケタル米穀ニシテ產業組合、農業倉庫業者、米穀統制組合又ハ農會ガ委託ヲ受ケ販賣シ又ハ販賣ヲ斡旋シタルモノ

產業組合、農業倉庫業者又ハ農會ガ米穀ノ販賣又ハ販賣ノ斡旋ヲ產業組合聯合會、聯合農業倉庫業者又ハ他ノ農會ニ委託シタルトキハ其ノ米穀ハ前項第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ販賣シ又ハ販賣ヲ斡旋シタルモノト看

做ス

第四十五條ノ四 米穀賣渡高調査ハ毎米穀年度左ノ期間ニ區分シテ之ヲ行フ

第一期　十一月乃至二月

第二期　三月乃至六月

第三期　七月乃至十月

前項ノ第三期ノ調査ニ付テハ其ノ年八月一日ヨリ十月三十一日迄ノ間ニ生産セラレタル米穀ト其ノ他ノ米穀トヲ區分シテ之ヲ行フ

第四十五條ノ五 第四十五條ノ三第一項第一號及第二號ノ米穀ハ米穀賣渡高調査員ニ於テ之ヲ調査スベシ

第四十五條ノ六 産業組合、農業倉庫業者タル法人、米穀統制組合及農會ノ代表者ハ第四十五條ノ三第一項第三號及第四號ノ米穀ニ付様式第四號ノ二ニ依リ地方長官ニ申告ヲ爲スベシ同條第二項ノ規定ニ依リ賣渡シ又ハ賣ヲ斡旋シタルモノト看做サレタル米穀ニ付亦同ジ

第四十六條 地方長官ハ農林大臣ノ命ヲ承ケ道府縣内ノ米穀生産費、米穀現在高及米穀移動ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第四十七條 農林大臣米穀生産費、米穀現在高及米穀移動ノ調査ノ爲必要アリト認ムル場合ニ於テハ道府縣ノ區域ニ米穀生産費調査員、米穀現在高調査指導員、米穀移動高調査員、米穀移動高調査指導員及米穀賣渡高調査員、市町村ノ區域ニ米穀現在高調査員及米穀賣渡高調査員ヲ置ク但シ特別ノ事由アルトキハ市町村ノ區域ニ依ラズシテ米穀現在高調査員及米穀賣渡高調査員ヲ置クコトヲ得

前項ノ調査員又ハ指導員ハ地方長官ノ推薦ニ依リ農林大臣ニ於テ之ヲ囑託ス

第四十八條 米穀生産費調査員、米穀移動高調査員及米穀賣渡高調査員ハ地方長官ノ指揮ヲ承ケ米穀現在高調査區域内ノ米穀生産費調査、米穀現在高調査、米穀移動高調査又ハ米穀賣渡高調査ノ事務ニ從事スル前項ノ擔當調査區域ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ム

米穀現在高調査指導員、米穀移動高調査指導員及米穀賣渡高調査指導員ハ地方長官ノ指揮ヲ承ケ米穀現在高調査員、米穀移動高調査員及米穀賣渡高調査員ノ事務ノ執行ヲ指導ス

第四十九條 米穀生産費調査員、米穀現在高調査員、米穀移動高調査員及米穀賣渡高調査員ハ職務執行ノ際様式第五號、第六號、第七號又ハ第七號ノ二ニ依ル資格證明書ヲ携帶スベシ

第五十條 米穀生産費、米穀現在高及米穀移動ノ調査ノ事務ニ從事シタル者ハ其ノ職務執行中知得シタル個人ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スベカラズ

第五十一條 米穀統制法第十一條第二項ノ規定ニ依リ當該官吏又ハ吏員ニ於テ携帶スベキ證票ハ様式第八號ニ依ルモノトス

第五十二條 農林大臣ノ指定シタル市場ノ開設者ハ毎日其ノ市場ニ於テ取引セラレタル米穀ニシテ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ニ該當スルモノノ各銘柄及等級別ノ取引總金額及取引總數量ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第五十三條 第五十條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十四條 第十七條ノ規定ニ依リ記帳及報告ヲ爲スベキ者故意ニ記帳若ハ報告ヲ爲サズ又ハ不實ノ記帳若ハ報

告ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ者ヲシテ記帳若ハ報告ヲ爲スコトヲ得ザラシメ又ハ不實ノ記帳若ハ報告ヲ爲サシメタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

前二項ノ規定ハ第四十條、第四十四條又ハ第四十五條ノ六ノ規定ニ依リ申告ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 虚僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計若ハ威力ヲ用ヒテ米穀生産費、米穀現在高及米穀移動ノ調査ヲ妨ゲタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十六條 第五十二條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ者故意ニ報告ヲ爲サズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ者ヲシテ報告ヲ爲スコトヲ得ザラシメ又ハ不實ノ報告ヲ爲サシメタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

附　則

本令ハ米穀統制法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

米穀法施行規則ハ之ヲ廢止ス

昭和八年十一月ニ公定スル最低價格又ハ最高價格ノ決定ニ付參酌スベキ物價參酌値ヲ算定スル場合ニ於テハ第二十條ノ規定ニ拘ラズ米價率ノ趨勢値ハ昭和八米穀年度ニ於ケル米價率ノ趨勢値トシ、物價指數ハ昭和八年九月ニ於ケル物價指數トス

本令施行前ニ米穀法施行規則ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ本令施行ノ後ト雖モ仍其ノ罰則ヲ適用ス

附　則（昭和十二年農林省令第二號）

昭和十一年十二月以降ニ於ケル米價指數及物價指數ハ當分ノ內第二十條第三項ノ規定ニ拘ラズ昭和十一年十一月以前ニ於テ日本銀行ノ行ヒタル卸賣物價ニ關スル調査ノ方法ニ依リ農林大臣ノ行フ調査ニ依リ之ヲ算定ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十二年農林省令第二十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依ル米穀販賣高調査ハ昭和十二米穀年度ニ限リ第三期ノ調査ヨリ之ヲ行フ

本令施行ノ際現ニ米穀移動調査員又ハ米穀移動調査指導員タル者ハ之ヲ米穀移動高調査員又ハ米穀移動高調査指導員ニ囑託セラレタルモノト看做ス

附錄

$$Y=\frac{\Sigma x^2\Sigma y-\Sigma x\Sigma(xy)}{n\Sigma x^2-(\Sigma x)^2}+\frac{n\Sigma(xy)-\Sigma x\Sigma y}{n\Sigma x^2-(\Sigma x)^2}X$$

Y　ハ物價參酌値ノ算定セラルル年度（年度トハ米穀年度トス以下同ジ）ニ於ケル米價率ノ趨勢値

x　ハ明治三十四年度ヲ第一年次トシ物價參酌値ノ算定セラルル年度ノ前年度ニ至ル各年度ノ年次ヲ表ス數

y　ハ明治三十四年度ヨリ物價參酌値ノ算定セラルル年度ノ前年度ニ至ル各年度ニ於ケル米價率

n　ハ明治三十四年度ヨリ物價參酌値ノ算定セラルル年度ノ前年度ニ至ル年度ノ數

X　ハ明治三十四年度ヨリ物價參酌値ノ算定セラルル年度ニ至ル年度ノ數

様式

第一號

賣渡申込書

昭和　年　月　日

農林大臣　殿

住所

氏　名　印

米穀統制法第三條ノ賣渡致度候ニ付テハ同法、同法施行令、同法施行規則、昭和　年農林省告示第　號及賣渡心得書ノ條項承知ノ上左記ノ通及申込候也

記

年産	銘柄	等級	數量	申込當時ノ現品所在地
			俵(叺)	道府縣 市區町村 郡

合計			
備考			

注意

(一)　申込米穀ノ年産、銘柄、等級又ハ現品所在地ヲ異ニスル毎ニ別行ニ記載スルコト

(二)　受渡地ニ付特ニ希望アルトキハ備考欄ニ之ヲ記載スルコトヲ得

第二號

買入申込書

昭和　年　月　日

農林大臣　殿

住所

氏　名　印

米穀統制法第三條ノ買入致度候ニ付テハ同法、同法施行令、同法施行規則、昭和　年農林省告示第　號及

買入心得書ノ條項承知ノ上左記ノ通及申込候也

記

年產	銘柄	等級	數量
			俵(叺)
合計			
備考			

注意

(一) 買入申込者ハ數種ノ銘柄及等級ノ米穀ニ付買入希望ノ順位ヲ附シテ申込ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ備考欄ニ第二順位以下ノ米穀ノ銘柄及等級竝ニ順位ヲ記載スルコト

(二) 買入申込者ニ於テ申込ノ銘柄及等級ニ該當スル米穀以外ノ米穀ノ買入ヲ希望セザルトキハ其ノ旨備考欄ニ之ヲ記載スルコト

(三) 申込米穀ノ年產、銘柄又ハ等級ヲ異ニスル毎ニ別行ニ記載スルコト

第三號

北海道廳長官
府縣知事　殿

申告年月日	昭和　年　月　日
倉庫ノ名稱	
所在地	
申告者氏名	印

米穀現在高申告書　(昭和　年　月一日現在)

種類別 / 單位 / 產米別	籾(玄米換算)			玄米			白米			碎米			計
	一箇當容量	箇數	石數	一箇當容量	箇數	石數	一箇當容量	箇數	石數	一箇當容量	箇數	石數	石數
內地米	斗升合		石斗	斗升合		石斗	斗升合		石斗				石斗
朝鮮米													
臺灣米													
外國米										斗升合		石斗	
計													
備考													

申告書提出期限　月　日

申告上ノ注意

(一) 申告者ハ調査期日ノ午前零時ニ現在スル米穀ニ付漏レナク記入スルコト

(二) 八月一日、九月一日及十一月一日現在ノ調査ニ在リテハ其ノ年八月一日ヨリ十月三十一日迄ノ間ニ於テ生產セラレタル內地米ハ之ヲ計上セザルコト

(三) 屑米及荷粉米ハ之ヲ計上セザルコト

(四) 籾ノ石數ハ其ノ地方ニ於テ通常使用セラルル換算方法ニ依リ玄米ニ換算ノ上之ヲ記入スルコト

(五) 包裝シタル米穀ノ容量ハ通常使用セラルル換算方法ニ依リ換算シ四捨五入シテ斗位ニ止ムルコト

(六) 一箇當容量、箇數及石數ノ欄ニハ包裝シタル米穀ニ在リテハ一箇當容量別ニ其ノ箇數及石數ヲ、バラ積ノ米穀ニ在リテハ其ノ石數ヲ記載スルコト

(七) 地方長官ノ指定シタル申告書提出期限ハ之ヲ嚴守スルコト

(八) 本調査ニ依リ蒐集シタル資料ハ本調査上ノ目的以外ニ之ヲ使用セザルモノナルコト

第四號ノ二(甲)(第一期及第二期ノ調査ノ分)

北海道廳長官
府縣知事 殿

申告年月日	昭和　年　月　日
名稱	
事務所所在地	
申告者氏名捺印	

米穀販賣高申告書　(昭和　年度第　期　月乃至　月分)

生産地	委託者別	糯										糯										合計
		籾			玄米			白米			計	籾			玄米			白米			計	
		一箇容量	箇數	石數(玄米換算)	一箇容量	箇數	石數	一箇容量	箇數	石數	石數	一箇容量	箇數	石數(玄米換算)	一箇容量	箇數	石數	一箇容量	箇數	石數	石數	石數
		斗升合		石斗	斗升合		石斗	斗升合		石斗	石斗	斗升合		石斗	斗升合		石斗	斗升合		石斗	石斗	石斗
	米穀生産者																					
	土地ニ付利權ヲ有スル者																					
	合計																					
備考																						

申告書提出期限　月　日

申告上ノ注意

(一) 委託販賣米及販賣籾旋米ノ數量ヲ記入スルコト
(二) 陸稻米、屑米、荷扮米及碎米ハ之ヲ計上セザルコト
(三) 生產地ハ當該米穀ノ生產セラレタル市町村名トシ市町村ヲ異ニスル毎ニ別紙トスルコト
(四) 籾ノ石數ハ其ノ地方ニ於テ通常使用セラルル換算方法ニ依リ玄米ニ換算ノ上之ヲ記入スルコト
(五) 包裝シタル米穀ノ容量ハ通常使用セラルル換算方法ニ依リ換算スルコト
石數欄ハ升位ニ於テ四捨五入シ斗位ニ止ムルコト
(六) 產業組合、農業倉庫業者又ハ農會ガ米穀ノ販賣又ハ販賣ノ斡旋ヲ產業組合聯合會、聯合農業倉庫業者又ハ他ノ農會ニ委託シタルトキハ其ノ米穀ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ヲ斡旋シタルモノトシテ記入スルコト
(七) 地方長官ノ指定シタル申告書提出期限ハ之ヲ嚴守スルコト
(八) 本調査ニ依リ蒐集シタル資料ハ本調査上ノ目的以外ニ之ヲ使用セザルモノナルコト

第四號

北海道廳長官
府縣知事 殿

申告年月日	昭和　年　月　日
名稱又ハ氏名	
所在地又ハ住所	
申告者氏名捺印	

米穀移出(入)高申告書　(昭和　年　月分)

仕向地別(仕出地別)	產地別	種類別	數量 一箇當容量	數量 箇數	數量 石數	備考
			斗升合		石斗	

申告書提出期限　月　日

申告上ノ注意

(一) 仕向地別(仕出地別)ハ北海道、何府縣、朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ト記入スルコト但シ朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島及外國ニ移出又ハ輸出セラルル米穀ニシテ當該道府縣以外ノ地ニ於ケル港灣ヲ經由スルモノニ付テハ港灣所在ノ道府縣ヲ以テ仕向地トスルコト
(二) 產地別ハ內地米、朝鮮米、臺灣米及外國米別ヲ記入スルコト但シ當該道府縣產米移出ニ付テハ其ノ銘柄別ヲ記入シ籾及白米ニ付テハ當該道府縣名ヲ記入スルコト
(三) 種類別ハ籾、玄米、白米及碎米(內地米ニ付テハ之ヲ除ク)ニ區分シテ之ヲ記入スルコト
(四) 包裝シタル米穀ノ容量ハ通常使用セラルル換算方法ニ依リ換算シ四捨五入シテ斗位ニ止ムルコト
(五) 籾ノ石數ハ其ノ地方ニ於テ通常使用セラルル換算方法ニ依リ玄米ニ換算ノ上記入スルコト
(六) 地方長官ノ指定シタル申告書提出期限ハ之ヲ嚴守スルコト
(七) 本調査ニ依リ蒐集シタル資料ハ本調査ノ目的以外ニ之ヲ使用セザルモノナルコト

第四號ノ二(乙)(第三期ノ調査ノ分)

北海道廳長官 殿
府縣知事

申告年月日	昭和　年　月　日
名稱	
事務所所在地	
申告者氏名捺印	

米穀販賣高申告書

(昭和　年度第三期七月乃至十月分)

生産地	委託別	新古米別	糯										糯										合計
			籾			玄米			白米			計	籾			玄米			白米			計	
			一箇當容量	箇數	石數(玄米換算)	一箇當容量	箇數	石數	一箇當容量	箇數	石數	石數	一箇當容量	箇數	石數(玄米換算)	一箇當容量	箇數	石數	一箇當容量	箇數	石數	石數	石數
			斗升合		石斗	斗升合		石斗	斗升合		石斗	石斗	斗升合		石斗	斗升合		石斗	斗升合		石斗	石斗	石斗
	米穀生産者	新米																					
		古米																					
	土地ニ付有スル權利者	新米																					
		古米																					
	合計	新米																					
		古米																					
備考																							

申告書提出期限　月　日

申告上ノ注意

(一)(二)(三) 委託販賣米及販賣翁旋米ノ數量ヲ記入スルコト
陸稻米、屑米、荷粉米及碎米ハ之ヲ計上セザルコト
(四) 生産地ハ當該米穀ノ生産セフレタル市町村名トシ市町村ヲ異ニスル毎ニ別紙トスルコト
第三期ノ調査ニ限リ其ノ年八月一日ヨリ十月三十一日迄ノ間ニ生産セラレタル米穀(新米)ト其ノ他ノ米穀(古米)トヲ區別シ當該欄ニ記入スルコト
(五) 籾ノ石數ハ其ノ地方ニ於テ通常使用セラルル換算方法ニ依リ玄米ニ換算ノ上之ヲ記入スルコト
(六) 包裝シタル米穀ノ容量ハ通常使用セラルル換算方法ニ依リ換算スルコト
石數欄ハ升位ニ於テ四捨五入シ斗位ニ止ムルコト
(七) 產業組合、農業倉庫業者又ハ農會ガ米穀ノ販賣又ハ販賣ノ翁旋ヲ產業組合聯合會、聯合農業倉庫業者又ハ他ノ農會ニ委託シタルトキハ其ノ米穀ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ヲ翁旋シタルモノトシテ記入スルコト
(八) 地方長官ノ指定シタル申告書提出期限ハ之ヲ嚴守スルコト
(九) 本調査ニ依リ蒐集シタル資料ハ本調査上ノ目的以外ニ之ヲ使用セザルモノナルコト

第七號

表

縣府道
米穀移動高調查員之號

氏名 ㊞

色 厚紙 橫 縱 六・五糎 九糎

裏

縣府道
米穀現在高調查員之號

氏名 ㊞

色 厚紙 橫 縱 六・五糎 九糎

第六號

表

縣府道
米穀生產費調查員之號

氏名 ㊞

色 厚紙 橫 縱 六・五糎 九糎

第五號

表

縣府道
米穀生產費調查員之號

氏名 ㊞

色 厚紙 橫 縱 六・五糎 九糎

第七號ノ二

表

米穀統制法第十一條第二項ノ規定ニ依ル證票

第　號

年　月　日交付

官職氏名

會計檢査官之證

甲　林

色厚紙縦七寸〇五分横九寸五分

裏

米穀統制法第十一條第二項ノ規定ニ依ル證票

第　號

年　月　日交付

官職氏名

會計檢査官之證

甲　林

色厚紙縦七寸〇五分横九寸五分

第十一條　米穀ノ賣渡、交換、加工、貯藏又ハ貸付ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ立テシム

第十二條　本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

第十三條　米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入ルル場合ヲ除クノ外一年內ニ償還スヘキ證券ヲ以テ其ノ額面金額ニ依リ之ヲ交付ス

前項ノ證券ハ無記名證券トス

第十四條　前條ニハニノ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

（施行期日）

第十五條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（經過規定）

第十六條　本法施行ノ際現ニ存スル米穀ニ關スル政府ノ權利義務ハ本會計ニ屬シ其ノ米穀ハ本會計ノ負擔ニ於テ之ヲ保管ス

（罰則）

第十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十二條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十三條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十四條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十五條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十六條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十七條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十八條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十九條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百五十條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百五十一條　第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 本會計ハ借入金、米穀賣渡代金及附屬雜收入ヲ以テ歲入トシ米穀ノ買入代金、米穀ノ買入賣渡交換加工貯藏貸付及運搬ニ關スル諸費、證券及借入金ノ償還金及利子其ノ他諸費ヲ以テ歲出トス

第六條ノ二 米穀ノ數量又ハ市價ノ變動ニ基ク買入數量ノ增加其ノ他避クベカラザル事由ニ因リ生ジタル豫算ノ不足ヲ補フ爲歲出豫算ニ豫備費ヲ設クルコトヲ得

第七條 本會計ニ於テ支拂上餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルヘシ

第八條 本會計ノ決算上剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ之ヲ繰入ルヘシ

本會計ノ每年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第九條 政府ハ每年度本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

附 則（大正十四年法律第三十三號）

本法ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和四年法律第三十號）

本法ハ昭和四年度ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和六年法律第三十二號）

本法ハ昭和六年度ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和七年法律第二十七號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和八年法律第二十五號）

本法ハ米穀統制法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和九年法律第二十九號）

本法ハ昭和九年度ヨリ之ヲ施行ス

政府ハ當分ノ內必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ第四條ノ三ニ定ムル證券及借入金ノ額ヲ通ズル最高金額ヲ三億圓ノ範圍內ニ於テ增額スルコトヲ得

○米穀需給調節特別會計規則

大正十年五月二十四日
勅令第二百二十四號

（改正）大正一一年勅令第四〇號、昭和九年第七六號

第一條 歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ貸借對照表及損益計算表竝其ノ年三月三十一日ニ於ケル米穀在高明細表ヲ添附スヘシ

第一條ノ二 會計規則第十九條、第二十條及第二十四條ノ規定ハ米穀需給調節特別會計法第六條ノ二ノ豫備費ノ支出ニ付之ヲ準用ス

第二條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入濟歲入額ヲ以テ支拂元受高トシ歲出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過

スルコトヲ得ス

第三條 每年度ニ屬スル歲出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出スハ當該年度三月三十一日限トス但シ國庫內ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歲出金ニ繰替使用シタル現金補塡ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度四月三十日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第四條 每年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ當該年度三月三十一日限トス

第五條 每年度內ニ收入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度內ニ收入濟ト爲ラサルモノハ收入未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲ爲シタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第六條 每年度內ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度內ニ小切手ヲ振出ササルモノハ支出未濟トシテ遞次翌年度ニ繰越シ時效完成ニ至ル迄ハ支拂ノ請求アル每ニ小切手ヲ振出スヘシ但シ支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 削除

第八條 歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 本會計ノ保有スル米穀ノ價格ハ每年度三月三十一日ニ於テ市價ニ準據シ之ヲ改定スヘシ

第十條 貸借對照表、損益計算表及米穀在高明細表ノ樣式ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十一條 削除

第十二條 所管大臣ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ本會計ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第十三條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ

第十三條ノ二 農林省ハ歲出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出濟額及殘額ヲ登記スヘシ但シ支出官一人ナル場合ニ於テハ支拂元受高差引簿ヲ省略スルコトヲ得

第十四條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正十年度ヨリ之ヲ適用ス

大正七年勅令第九十二號ハ大正十年五月三十一日限之ヲ廢止ス

附 則（大正十一年勅令第四十號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和九年勅令第七十六號）

本令ハ昭和九年度ヨリ之ヲ施行ス

○政府所有米穀特別處理法

昭和九年三月二十九日
法律第三十二號

第一條 政府ハ米穀ノ新規利用ニ關スル試驗研究ノ用ニ供スルトキ又ハ米穀ノ新規用途ノ開拓ノ爲必要アルトキニシテ米穀ノ市價ニ影響ヲ及ボサザル場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀需給調節特別會計ニ屬スル米穀ヲ處分スルコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル米穀ノ處分ニ關スル重要事項ハ農林大臣米穀處理委員會ニ諮問シテ之ヲ定ム
米穀處理委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 第一條ノ規定ニ依ル米穀ノ處分ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和九年勅令第百三十二號ヲ以テ昭和九年五月二十日ヨリ施行）

○政府所有米穀特別處理法施行令

昭和九年五月十九日
勅令第百三十三號

農林大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府所有米穀特別處理法第一條ノ規定ニ依リ米穀需給調節特別會計ニ屬スル米穀ヲ處分スルコトヲ得

一 政府ガ米穀ノ新規利用ニ關スル試驗研究ノ用ニ供セントスルトキ

二 米穀ノ新規利用ニ關スル試驗研究ノ用ニ供セントスル公共團體又ハ公益法人ニ米穀ノ讓與ヲ爲ストキ

三 米穀ノ新規利用ニ關スル試驗研究又ハ米穀ノ新規用途ノ開拓ノ用ニ供セントスル者ニ米穀ノ賣渡ヲ爲ストキ

前項ノ規定ニ依ル米穀ノ賣渡ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

附 則

本令ハ政府所有米穀特別處理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣街庄制（抄）

昭和十年四月一日
律令第三號

（改正） 昭和十二年律令第一八號

第五十八條 街庄稅、使用料、手數料、過料、過怠金其ノ他ノ街庄ノ收入ヲ定期內ニ納メザル者アルトキハ街庄長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期內ニ其ノ履行ヲ爲サズ又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メザルトキハ街庄長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役又ハ現品ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命ズベシ

前二項ノ場合ニ於テハ街庄條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限迄ニ之ヲ完納セザルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スベシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ニ付テハ州又ハ廳ノ徵收金ニ次デ先取特權ヲ有シ其ノ追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

○臺灣國稅徵收規則

大正二年四月一日
律令第三號

（改正） 大正九年律令第一五號

第一條 國稅ノ徵收ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外國稅徵收法ニ依ル但シ同法中勅令トアルハ臺灣總督府令、帝國トアルハ臺灣、市町村內トアルハ市內、街庄內又ハ區內、大藏大臣トアルハ臺灣總督、市町村吏員トアル

ハ市、街庄又ハ區ノ職員トシ市町村ノ事務ハ市尹、街庄長又ハ區長之ヲ行フ

第二條 國稅徵收法中所有權ニ關スル規定ハ業主權ニ、質權ニ關スル規定ハ典權ニ、抵當權ニ關スル規定ハ胎權ニ、所有主ニ關スル規定ハ業主ニ、共有物ニ關スル規定ハ共業ニ、登錄稅ニ關スル規定ハ登記稅ニ之ヲ準用ス

第三條 既納ノ稅金過納ナルトキハ同一年度內ニ限リ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得

第四條 債權ノ差押ヲ爲シタルトキハ政府ハ直ニ債權ヲ公賣ニ付スルコトヲ得

前項ノ公賣ニ關シ必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

第五條 差押タル物件又ハ債權ニシテ其ノ見積價格五十圓未滿ノモノハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第六條 本令ハ當分ノ內官租ノ徵收ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督ハ當分ノ內街庄長又ハ區長ノ爲スヘキ納稅ノ告知ハ地方廳ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

臺灣總督ハ臺東廳又ハ花蓮港廳ノ管轄內ニ於テハ區域ヲ指定シ本令中街庄長又ハ區長ノ國稅徵收ニ關スル規定ヲ施行セサルコトヲ得

律令中「臺灣租稅滯納處分規則」、「臺灣租稅滯納處分規則ノ規定」又ハ「臺灣租稅滯納處分規則ノ例」ヲ「臺灣國稅徵收規則中滯納處分ニ關スル規定」ニ改ム

○訴願法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

大正十一年三月二十八日
勅令第五十一號

第一條 訴願法ハ郡參事會、市參事會及府縣參事會ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス但シ同法中各省大臣トアルハ臺灣總督、其省又ハ各省トアルハ臺灣總督府トス

第二條 訴願書ハ國語ヲ以テ之ヲ認ムヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○訴願法

明治二十三年十月十日
法律第百五號

第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ揭クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

一 租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
二 租稅滯納處分ニ關スル事件
三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
四 水利及土木ニ關スル事件
五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
六 地方警察ニ關スル事件
其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條 訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條 各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條 訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ渉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條 訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ並下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條 第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條 訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條 訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦

同シ

第十六條 上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條 訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附 則

第十八條 明治十五年十二月第五十八條布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條 第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス

○非訟事件手續法（抄）

明治三十一年六月二十一日
法律第十四號

（改正）明治三二年法律第五一號、四四年第七四號、大正二年第一九號、一一年第六三號、第七一號、一五年第六七號、昭和二年第三三號、四年第六〇號、六年第四二號、九年第三號

第二百六條 民法第八十四條、第千百七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二及ヒ商法施行法第十一條第三項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條及ヒ小切手法第七十一條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

○第五回臺灣低利資金貸出手續

第一條 本資金ハ臺灣ニ於ケル公共團體及產業組合ノ事業ニ對シ供給スルモノトス

第二條 本資金ノ貸出ハ左ノ順序ニ依ル

一 事業費

二 舊債償還

第三條 本資金ハ成ルヘク多數ノ者ニ融通ノ便ヲ得シムルヲ目的トシ同一團體ニ對スル貸付ハ特別ノ事情アルモノノ外二十萬圓以内トス

第四條 貸付ハ定期、年賦ノ二種トシ左ノ規定ニ依ルモノトス

一 定期貸 五箇年以内但シ利息ハ年二回拂込トシ元金ハ成ルヘク數回ニ分割償還セシムルコト

二 年賦貸 二十箇年以内（内五箇年以内ノ元金据置期間ヲ設クルコトヲ得）

第五條 貸付利息ハ年六分トス

第六條 各事業主體ニ對スル本資金ノ割當ニ付テハ豫メ大藏省預金部ニ合議シ其ノ承認ヲ受クルモノトス

第七條 前條ニ依リ各事業主體ニ對スル割當額確定シタルトキハ日本勸業銀行ト其ノ供給方法其ノ他必要ナル事項ヲ協議決定ノ上供給決定報告書ヲ大藏省ニ提出スルモノトス

第八條 本資金ノ供給決定通知ヲ受ケタル事業主體ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ直接本日勸業銀行ニ對シ資金借入ノ手續ヲ爲スヘシ

若シ前項ノ期間内ニ借入ノ手續ヲ開始セサルトキハ供給決定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由ニ依リ臺灣總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ非ス

第九條 日本勸業銀行借入申込者ノ業務及財產ノ狀況ニ依リ第七條ノ供給決定額ヲ變更スルノ必要アリト認メタルトキハ事由ヲ具シ直ニ臺灣總督府ニ申出ツヘシ

臺灣總督府前項ノ申出ヲ受ケタルトキハ大藏省預金部ト合議ノ上適宜ノ處置ヲ爲スヘシ

第十條 日本勸業銀行本資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ其ノ貸付先、貸付金ノ用途、貸付金額償還期限及貸付年月日ヲ一口毎ニ區別シテ毎月一回之ヲ取纏メ大藏省及臺灣總督府ニ報告スヘシ

本資金ノ償還アリタルトキ前項ニ同シ

第十一條 債務者ハ隨時大藏省若ハ臺灣總督府ノ實地調査ヲ受ケ又ハ其ノ命スル報告書ヲ提出スヘシ

第十二條 債務者ハ本借入金ヲ受領シ支拂ヲ爲スニ至ル迄ノ間成ルヘク之ヲ郵便貯金ニ預入レ又ハ日本勸業銀行ニ預入ルヘシ

第十三條 債務者本借入資金ヲ供給決定當時ノ目的外ニ使用シ又ハ借入後六月以上使用セサルトキハ之ヲ返還セシムルモノトス

○低利資金借入申請書調製要項

一 低利資金借入申請書ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

イ 借入希望金額及其ノ算定基礎

ロ 借入資金ノ用途

ハ 償還ノ方法及期限

ニ 舊債償還ノ爲ニ借入ルルモノニ在リテハ舊債ヲ生シタル原因、金額、利率及償還方法

ホ 借入主體カ組合ナル場合ハ其ノ設立年月日

ヘ 起債又ハ事業計畫ニ關シ監督官廳ノ認可ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ認可年月日

二 借入申請書ニ添附スヘキ書類左ノ如シ

イ　事業計畫ノ內容ヲ可成詳細ニ記載シタル事業計畫書
ロ　借入資金ノ支出明細書竝事業完成後ニ於ケル收益豫想ヲ計上記載シタル收支計算書
ハ　農會、水產會、漁業組合、漁業組合聯合會、水利組合、埤圳組合及市街庄ニ在リテハ當該事業年度ノ豫算書及定款アルモノニ付テハ定款
產業組合ニ在リテハ最近ノ貸借對照表及定款
ニ　建築組合ニ在リテハ役員氏名及組合員ノ職業氏名

（備考）
以上ノ申請書及添附書類ハ財務局ニ於テ二通ヲ要ス

○臺灣地租規則（抄）

明治三十七年十一月十日律令第十二號

（改正）大正四年律令第一號、八年第三號、一一年第八號、一二年第二號、昭和二年第二號、一〇年第五號

第一條　土地ノ地目ヲ左ノ通定ム

一　田、畑、養魚池、建物敷地、山林、雜種地
二　鹽田、鑛泉池、池沼、原野、牧場
三　神社敷地、祠廟敷地、墳墓地、鐵道用地、公園地、練兵場、射的場、砲臺用地、燈臺用地
四　道路、鐵道線路、溝渠、用惡水路、堤防

第二條　土地ハ地目ヲ定メ地盤ヲ測量シ一區域毎ニ地番ヲ付ス

地目ヲ變換シ若ハ區域ヲ變更シタルトキハ其ノ地目若ハ地番ヲ更正シ地盤ニ增減ヲ生シタルトキハ地盤ヲ測量ス

第三條　地積ハ左ニ揭クル名稱命位ニ依ル

絲　甲ノ萬分ノ一
毫　甲ノ千分ノ一
厘　甲ノ百分ノ一
分　甲ノ十分ノ一
甲　二千九百三十四坪但シ一坪六尺平方

第四條　地方廳ニ土地臺帳及地圖ヲ備ヘ土地ニ關スル事項ヲ登錄ス
土地臺帳及地圖ノ閱覽又ハ其ノ謄本ノ下付ヲ要スル者ハ其ノ所管地方廳ニ請求スルコトヲ得

第五條　第一條第一號ノ土地ニハ地租ヲ賦課ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ地租ヲ賦課セス

一　國有ノ土地ニシテ永代借地權ノ設定ナキモノ
二　國又ハ公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル有料借地ニ非サル土地ニシテ臺灣總督ノ指定スルモノ
三　保安林、樟樹造林地

第六條　地租ハ土地ノ等則ヲ詮定シ甲數ニ應シ左ノ租率ニ依リ之ヲ賦課ス

一　田

等則	一箇年一甲ノ租率
一則	三十一圓六十錢

二則	二十七圓
三則	二十三圓
四則	十九圓五十錢
五則	十六圓四十錢
六則	十三圓七十錢
七則	十一圓四十錢
八則	九圓五十錢
九則	七圓八十錢
十則	六圓四十錢
十一則	五圓三十錢
十二則	四圓三十錢
十三則	三圓五十錢
十四則	二圓九十錢
十五則	二圓三十錢
十六則	一圓九十錢
十七則	一圓六十錢
十八則	一圓四十錢

十九則	一圓二十錢
二十則	一圓

第七條 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ年分ヨリ地租ヲ徵收ス但シ其ノ年分ノ地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後ナルトキハ其ノ後ニ開始スル納期分ヨリ徵收ス

地租ヲ課スル土地ニシテ他ノ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ年分ヨリ地租ヲ修正ス但シ其ノ年分ノ地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後ナルトキハ其ノ後ニ開始スル納期分ヨリ修正ス

地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其ノ年分ヨリ地租ヲ徵收セス但シ其ノ年分ノ地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後ナルトキハ其ノ後ニ開始スル納期分ヨリ徵收セス

第一項及前項ノ規定ハ荒地免租年期付與、荒地免租年期滿了又ハ開墾免租期滿了ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地租ヲ課スル土地ニシテ天災ニ罹リ土地ノ形狀ヲ變シ若ハ作土ヲ損害シタルトキハ被害ノ情況ニ應シ十箇年以內ノ荒地免租年期ヲ付與スルコトヲ得

荒地免租年期ヲ付與シタルモノハ年期滿了ニ至リ原地租ニ復ス但シ土地ノ情況原等則ニ依リ難キモノハ地租ヲ修正ス

荒地免租年期中他ノ地租ヲ課スル土地トナリタルモノハ年期滿了ニ至リ地租ヲ修正ス

第九條 左ニ揭クルモノハ其ノ土地ノ情況ニ應シ十箇年以內ノ開墾免租年期ヲ付與スルコトヲ得

一 第一條第二號乃至第四號ノ土地ニシテ特ニ勞費ヲ加ヘテ地租ヲ課スル土地トナシタルモノ

二 海面、水面、海埔、浮洲等ニ勞費ヲ加ヘテ地租ヲ課スル土地トナシタルモノ

第十條 第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ新ニ地租ヲ徵收シ又ハ地租ヲ修正スヘキトキハ土地ノ收益其ノ他ノ情況ヲ審査シ等則ヲ詮定ス

第十條ノ二 州又ハ廳ノ全部又ハ一部ニ亙ル災害又ハ天候不順ニ因リ生產皆無ニ歸シタル田、畑又ハ養魚池ノ地租ハ其ノ年分ニ限リ之ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ田、畑又ハ養魚池ニ付テハ被害ノ調査中其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第十一條 地租ハ左ニ揭クル者ヨリ之ヲ徵收ス

一 永代借地權ノ目的タル土地ニ付テハ永代借地權者

二 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

三 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者

四 其ノ他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ノ所有者、永代借地權者、質權者及地上權者ハ土地臺帳ニ登錄シタルモノニ依ル

第十二條 地租ノ納期ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十三條 納租者地租ヲ逋脫シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ自首シタル者ハ刑ヲ免ス

第十四條 地租ヲ逋脫シタルトキハ發覺ノ年ヨリ地租ヲ賦課又ハ修正シ仍逋脫シタル地租ヲ追徵ス

第十五條 此ノ規則ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

附 則

明治三十七年分ノ地租ハ明治三十七年下半年分ヨリ徵收ス

明治二十九年律令第五號、明治三十年律令第三號、明治三十一年律令第十四號及明治三十三年律令第十一號ハ之ヲ廢止ス

臺灣總督ハ當分ノ內澎湖廳及蕃東廳ニ此ノ規則ヲ施行セサルコトヲ得此ノ場合ニ於テ地租ハ從來ノ例ニ依リ之ヲ賦課ス

附 則 （大正八年律令第三號）

本令ハ大正八年分地租ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ノ際本令ニ依リ一街庄ニ於テ地租年額十圓未滿ヲ納ムル義務アル者ノ各土地ノ地租年額カ從前ノ規定ニ依ル地租年額ノ二倍ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ本令施行後三年間之ヲ徵收セス

前項ノ規定ハ本令施行後一街庄ニ於テ地租年額十圓以上ヲ納ムル義務アルニ至リタル者ノ土地ニ付テハ之ヲ適用セス

前項ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收セサル土地ノ業主權又ハ典權カ本令施行後相續以外ノ事由ニ因リテ移轉シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ付亦同シ

附 則 （昭和二年律令第二號）

本令ハ昭和二年分地租ヨリ之ヲ適用ス但シ本令公布前荒地免租年期又ハ開墾免租年期ヲ付與シタル土地ノ地租ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 （昭和十年律令第五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十年分地租ヨリ之ヲ適用ス

各土地ノ等則ハ本令施行ノ際土地ノ收益其ノ他ノ情況ニ應ジ之ヲ改訂ス

本令ニ依ル各土地ノ地租年額ガ從前ノ規定ニ依ル地租年額ノ二倍ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ本令施行後三年間之ヲ徵收セズ

本令施行後相續以外ノ事由ニ因リ納租者ニ變更アリタルトキハ其ノ土地ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ本令施行後ノ土地ノ異動ニ因リ地租額增加シタルトキ其ノ增加額ニ付亦同ジ

○臺灣地方稅規則

（抄）昭和十二年三月三十一日府令第十八號

（改正）昭和一二年府令第一〇六號

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ地方稅ト稱スルハ州稅、廳稅及市街庄稅ヲ謂フ

第三條　州稅又ハ廳稅トシテ賦課スルコトヲ得ベキ國稅附加稅及特別稅ノ稅目左ノ如シ

國稅附加稅

一　所得稅附加稅（第二種ノ所得稅ニ對スルモノヲ除ク）

二　地租附加稅

三　營業稅附加稅

四　鑛業稅附加稅

特別稅

一　戶稅

二　特別營業稅

三　雜種稅

市街庄稅トシテ賦課スルコトヲ得ベキ國稅、州稅又ハ廳稅ノ附加稅ノ稅目左ノ如シ

國稅附加稅

一　所得稅割（第二種及第三種ノ所得稅ニ對スルモノヲ除ク）

二　地租割

三　營業稅割

四　鑛業稅割

州稅又ハ廳稅ノ附加稅

一　戶稅割

二　特別營業稅割

三　雜種稅割

第五條　國稅附加稅ハ本稅ノ課稅客體ニ對シ所得稅附加稅及所得稅割ニ在リテハ土地家屋物件若ハ營業所ノ所在地又ハ住所若ハ居所、地租附加稅及地租割ニ在リテハ土地ノ所在地、營業稅附加稅及營業稅割ニ在リテハ營業所ノ所在地、鑛業稅附加稅及鑛業稅割ニ在リテハ營業所又ハ鑛區ノ所在地ニ於テ本稅ノ納稅義務者ニ之ヲ賦課ス

州稅又ハ廳稅ノ附加稅ハ本稅ノ課稅客體ニ對シ本稅ノ納稅地ニ於テ其ノ納稅義務者ニ之ヲ賦課ス

第九條 國稅、州稅又ハ廳稅ノ附加稅ノ賦課率ハ本稅ノ屬スル年度ノ附加稅賦課率ニ依ル但シ第一種ノ所得稅ニ對スル所得稅附加稅及所得稅剩ニ付テハ事業年度終了ノ日ノ屬スル年度ノ附加稅賦課率ニ依ル

第十條 第三條ノ附加稅ハ本令ニ定ムル制限率ノ區分ニ依リ均一ノ賦課率ヲ以テ之ヲ賦課スベシ但シ州稅又ハ廳稅ニ付テハ臺灣總督、市街庄稅ニ付テハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 戶稅ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外別ニ之ヲ定ム

第二章 州稅及廳稅

第一節 附加稅

第十五條 州稅又ハ廳稅トシテ賦課スルコトヲ得ベキ國稅附加稅ノ制限率左ノ如シ

所得稅附加稅	（略）	
地租附加稅	地租	百分ノ百
營業稅附加稅	（略）	
鑛業稅附加稅	（略）	

第十六條 地租附加稅及營業稅附加稅ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ前條ノ制限率ヲ超過シテ其ノ百分ノ二十以內ニ於テ之ヲ增加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ制限率ヲ超過シテ增課スルハ他ノ國稅附加稅及特別稅ノ賦課ガ第十五條、第十七條及第三十九條ニ規定スル制限率ニ達シタルトキニ限ル

第二節 特別稅

第一款 特別營業稅（略）

第二款 雜種稅

第三十九條 雜種稅ノ種類、課稅標準及制限率左ノ如シ

種類		課稅標準及制限率	
私法人建物	年稅（略）		
船	筏 年稅（略）		
車	年稅 自用人力車（略）		
	營業人力車（略）		
	自轉車 二輪車	一輛ニ付	二圓四十錢
	自轉車 三輪以上	一輛ニ付	三圓六十錢
	自動自轉車（略）		
	荷車 一等 三輪以上ノ牛馬車	一輛ニ付	五圓
	荷車 二等 二輪牛馬車	一輛ニ付	三圓
	荷車 三等 其ノ他 荷臺面積 一・三平方米以上	一輛ニ付	二圓
	荷臺面積 一・三平方米未滿	一輛ニ付	一圓二十錢

第四十一條　雜種稅ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ賦課ス

三　車稅、自動車稅又ハ轎稅ハ車、自動車又ハ轎ニ對シ其ノ主タル定置場所在地ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

第四十二條　左ノ場合ニ於テハ其ノ一ニ賦課シ賦課率ノ異ナルトキハ重キニ依リ賦課ス

一　車ヲ賦課率ノ異ナルモノニ共通使用スルトキ

第四十四條　雜種稅ノ課稅標準ニ增減アルトキハ其ノ增減ノ部分ニ對シテハ納稅義務發生シ又ハ消滅シタルモノト看做ス其ノ變更ニ因リ賦課率ニ增減アルトキ亦同ジ

第五十一條　第二十四條、第三十條第一項及第二項、第三十一條、第三十二條竝ニ第三十六條ノ規定ハ雜種稅ニ付之ヲ準用ス

第三章　市街庄稅

第五十二條　市街庄稅トシテ賦課スルコトヲ得ベキ附加稅ノ制限率左ノ如シ

國稅附加稅

所得稅割	（略）	
地租割		地租　百分ノ五十
營業稅割	（略）	
鑛業稅割	（略）	

州稅又ハ廳稅ノ附加稅

特別營業稅割	（略）	
雜種稅割	特別所得稅ニ對スルモノ	九分ノ一
	其ノ他ニ對スルモノ	百分ノ三十

第五十三條　地租割、營業稅割、特別營業稅割及雜種稅割ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ前條ノ制限率ヲ超過シテ其ノ百分ノ二十以內ニ於テ之ヲ增課スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ制限率ヲ超過シテ增課スルハ他ノ國稅附加稅及州稅又ハ廳稅ノ附加稅ノ賦課ガ前條ニ規定スル制限率ニ達シタルトキニ限ル

第五十四條　市街庄ハ其ノ屬スル州又ハ廳ノ州稅又ハ廳稅ノ賦課率ガ其ノ制限率ニ達セザルトキハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ其ノ市街庄內ニ於ケル各市街庄稅ト之ト本稅ヲ同ジクスル州稅、廳稅又ハ各市街庄稅ト其ノ本稅タル州稅又ハ廳稅ニ付各制限率ニ依リ賦課シタル場合ニ於ケル稅額ノ合算額ト其ノ年ノ賦課額ノ合算額トノ差額ヲ超エザル範圍內ニ於テ其ノ制限率ヲ超過シテ增課スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十二年度分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年府令第百三十九號臺灣州稅規則、同年府令第百四十號（地租附加稅及所得稅附加稅制限）及同年府令第百五十二號臺灣市街庄稅規則ハ昭和十一年度分限リ之ヲ廢止ス

大正九年府令第百六十七號臺灣州戶稅規則中第十六條ヲ削リ第十七條ヲ第十六條ト

○臺灣州制（抄）昭和十年四月一日律令第一號

第五十條 州稅トシテ賦課スルコトヲ得ベキモノ左ノ如シ

一 國稅附加稅

二 特別稅

（註 特別稅ハ從來ノ戶稅、特別營業稅、雜種稅ヲ謂フ）

○臺灣州廳戶稅規則 大正九年十一月十日府令第百六十七號

（改正）大正一〇年府令第七四號、第一一五號、一二年第四二號、昭和一一年第七六號、一二年第一八號、第一〇七號

第一條 戶稅ハ構戶者ヨリ之ヲ徵收ス

同居者タルト寄寓者タルトヲ問ハズ獨立ノ生計ヲ營ム者ヲ以テ構戶者ト看做ス

第二條 戶稅ハ每年四月一日ノ現在ニ依リ賦課ス

四月二日以後納稅義務ヲ發生シタルトキハ隨時之ヲ賦課ス

第三條 戶稅ハ四月一日現在ニ依ルモノハ各市街庄ニ配賦シ市尹又ハ街庄長ヲシテ賦課セシメ隨時賦課ニ係ルモノハ州知事又ハ廳長之ヲ賦課ス

第四條 戶稅總額ハ豫算ノ屬スル年度ノ前年四月一日現在ニ於ケル戶稅納稅義務者ノ數及其ノ納稅義務者ニ對シ賦課標準ト爲シタル總生產額ヲ標準トシテ各市街庄ニ配賦ス但シ戶稅納稅義務者ノ數ヲ標準トスル配賦額ハ戶稅總額ノ十分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス

特別ノ事情アル場合ニ於テハ州知事又ハ廳長ハ臺灣總督ノ許可ヲ得テ前項ノ標準ニ斟酌ヲ加ヘ又ハ別ニ標準ヲ設クルコトヲ得

第五條 各市街庄ニ於テ賦課スヘキ戶稅ハ納稅義務者ノ其ノ會計年度內ノ見積生產額ヲ標準トシテ賦課ス但シ山林伐採又ハ立竹木ノ讓渡ノ生產額ハ伐採又ハ讓渡ノ翌年度ノ賦課標準ニ計算ス

特別ノ事情アル場合ニ於テハ前項標準額ノ十分ノ二以內ニ於テ斟酌ヲ加フルコトヲ得

第六條 州知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ前條ノ見積生產額ノ多寡ニ應シ賦課率ニ等差ヲ設ケテ賦課セシムルコトヲ得

第七條 隨時賦課ニ係ル戶稅ハ納稅義務發生後其ノ會計年度內ノ見積生產額ヲ標準トシ各市街庄ニ於テ定メタル賦課率ニ依リ賦課ス但シ九月三十日以前ニ他ノ州又ハ廳內ヨリ移轉シタル者ニ對シテハ十月一日以後ノ見積生產額ヲ標準トシテ賦課ス

前項ノ課稅標準ニ付テハ第五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第八條 戶稅賦課ノ標準ト爲スヘキ生產額ハ總生產額ヨリ生產ヲ得ルニ直接必要ナル經費ヲ控除シタルモノトス

但シ左ニ揭クルモノハ收入金額ヲ以テ生產額トス

一 俸給、給料、年金、恩給、退隱料、賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與

二 營業ニ非サル貸金ノ利子

三 公債、社債及預金ノ利子

四 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

第九條　納稅義務者ト生計ヲ共ニスル同居者ノ生產額ハ其ノ納稅義務者ノ生產額ニ合算ス但シ其ノ納稅義務者ヨリ受クル生產額ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　生產額中俸給、給料、年金、恩給、退隱料、賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ四ヲ控除シタルモノヲ以テ賦課標準トス

第十條ノ二　第五條ノ規定ニ依リ調查シタル見積生產額二千圓以下ナル場合又ハ第七條ノ規定ニ依リ調查シタル見積生產額ノ換算年額二千圓以下ナル場合ニ於テ納稅義務者及之ト生計ヲ共ニスル同居者中其ノ年四月一日現在ニ於テ年齡十四歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具廢疾者アルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ一人每ニ八十圓以內ノ金額ヲ其ノ生產額ヨリ控除ス但シ第七條ノ規定ニ依リ賦課スルモノノ控除額ハ月割ヲ以テ計算ス

前項ノ不具廢疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、唖者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スルモノヲ謂フ

第十一條　左ニ揭クルモノハ戶稅賦課ノ標準タル生產額ニ算入セス

一　軍人從軍中ノ俸給及手當

二　扶助料、傷痍疾病者ノ恩給及退隱料

三　旅費、學資金、宿舍料、決定扶養料及救助金

四　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ生產

五　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ外國ニ於ケル資產、營業又ハ職業ヨリ生スル生產

第十二條　納稅義務者ノ住所地タル州又ハ廳以外ノ地ニ於ケル生產額ハ納稅義務者ノ住所地タル州又ハ廳ニ於ケル生產額ニ合算ス

同一人ニ對シ二以上ノ州又ハ廳ニ於テ戶稅ヲ賦課スルトキハ其ノ州又ハ廳ニ於ケル生產額ヲ以テ其ノ者ノ生產額トス但シ生產額ニシテ分別シ難キトキハ之ヲ平分ス

州又ハ廳內ノ數市街庄內ニ於テ戶稅ヲ賦課スルトキハ其ノ生產額ノ分別方法ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ニ規定スル生產額計算ニ付州又ハ廳內關係市街庄異議アル場合ニ於テ其ノ廳又ハ郡內ニ止マルモノハ廳長又ハ郡守、其ノ郡市又ハ數郡市ニ涉ルモノハ州知事又ハ廳長之ヲ定メ關係州知事又ハ廳長異議アル場合ニ於テハ臺灣總督之ヲ定ム

第十三條　貧困ニシテ戶稅ノ負擔ニ堪ヘスト認ムル者ニ對シテハ市街庄長ハ州知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケ其ノ他ハ州知事又ハ廳長ニ於テ賦課スヘキモノニ在リテハ市尹又ハ街庄長ハ州知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケ其ノ他ハ州知事又ハ廳長ニ於テ賦課セサルコトヲ得

前項ニ依リ市街庄ニ於テ賦課セサルモノアルモ戶稅ノ配賦額ハ之ヲ減少セス

第十三條ノ二　戶稅ハ每會計年度九月三十日以前ヲ前期トシ十一月一日以後ヲ後期トシ每期ニ其ノ半額ヲ徵收ス

州知事又ハ廳長ハ地方ノ狀況ニ依リ前期ノ納期ニ於テ一時ニ其ノ年額ヲ徵收スルコトヲ得

第十三條ノ三　納稅義務者ト生計ヲ共ニスル同居者カ九月三十日以前ニ別居シタルトキハ納稅義務者ニ對スル後期分ノ戶稅ハ其ノ別居者ノ生產額ニ相當スル後期分ノ稅額ヲ減額賦課ス

納稅義務者又ハ之ト生計ヲ共ニスル同居者カ九月三十日以前ニ他ノ納稅義務者ト同居シ生計ヲ共ニシタルトキハ他ノ納稅義務者ニ對スル後期分ノ戶稅ハ其ノ同居者ノ生產額ニ相當スル後期分ノ稅額ヲ合算賦課ス

第十四條 九月三十日以前ニ納稅義務ノ消滅シタルトキハ後期分ノ戶稅ハ之ヲ賦課セス

第十五條 戶稅ノ納稅義務者他ノ州又ハ廳內ヨリ移轉シタルトキハ其ノ期分ノ戶稅ハ之ヲ賦課セス

第十六條 本令施行ニ關シ必要ナル細則ハ州知事又ハ廳長之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年度ニ於ケル第四條ノ配賦標準ハ州知事ノ定ムル所ニ依ル

州知事ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ當分ノ內特別ノ事情アル場合ニ限リ第五條ノ見積生產額中資產ヨリ生スル生產額ニ對スル割合ヲ加減スルコトヲ得

附則（昭和十二年府令第百七號）

本令ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年府令第百七十七號臺灣廳地方費戶稅規則ハ之ヲ廢止ス

臺灣廳地方費戶稅規則廢止前ノ廳地方費稅タル戶稅ニ關シテハ前項ノ規定ニ拘ラス仍舊令ニ依ル

昭和十二年度分ノ廳稅タル戶稅ノ賦課ニ付テハ第二條第一項中「每年四月一日」トアルハ「昭和十二年十月一日」、同條第二項中「四月一日」トアルハ「十月一日」、第三條中「四月一日」トアルハ「十月一日」、第四條中「豫算ノ屬ス

ル年度ノ前年四月一日現在ニ於ケル戶稅納稅義務者ノ數及其ノ納稅義務者ニ對シ賦課標準ト爲シタル總生產額」トアルハ「昭和十二年十月一日現在ニ於ケル戶稅納稅義務者ノ數及其ノ納稅義務者ニ對シ賦課標準ト爲スヘキ總生產額」、第五條第一項中「納稅義務者ノ其ノ會計年度內ノ見積生產額」トアルハ「納稅義務者ニシテ昭和十二年度分ノ廳地方費稅タル戶稅ノ賦課ヲ受ケタルモノニ對シテハ其ノ賦課標準ト爲シタル總生產額ノ二分ノ一、廳地方費稅タル戶稅ノ賦課ヲ受ケサリシモノニ對シテハ其ノ會計年度內ノ見積生產額」トシ、第十條ノ二ノ規定ハ定期賦課ニ係ルモノニ限リ之ヲ適用セス

從前ノ規定ニ依リ賦課シタル昭和十二年度分年額ノ廳地方費稅タル戶稅ニシテ十月一日以後ニ屬スルモノハ本令ニ依リ賦課シタル廳稅タル戶稅ト看做ス此ノ場合ニ於テハ其ノ納稅義務者ノ數及賦課標準ト爲スヘキ總生產額ハ第四條ノ配賦標準ニ算入セス

○官租地取扱規程

明治四十三年六月七日訓令第百十七號

（改正）明治四五年訓令第一一二號、大正九年第二六五號、一一年第四九號、一五年第九號

第一條 本令ニ依ル官租地ニ關スル事務ハ州知事又ハ廳長ニ於テ之ヲ處理スヘシ但シ臺灣總督ニ於テ特ニ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一條ノ二　土地臺帳ニ登錄セラレタル國有ノ田、畑、養魚池及其ノ附屬地（田塍、稻干場、池等ノ類）ハ之ヲ官租地トシテ官租地臺帳ニ登錄スヘシ

官租地臺帳ニ登錄シタル土地ハ地目ノ變換又ハ使用ノ目的ヲ變更シタルモノト雖官租地トシテ取扱フヘシ但シ官用ノ土地ト爲リタルトキ又ハ河海湖ト爲リタルトキハ官租地臺帳ヨリ除却シ官用廢止ノトキ更ニ登錄スヘシ

第二條　官租（本令ニ於テ貸付料ヲ官租ト稱スル）ハ土地ノ等級ヲ詮定シ甲數ニ應シ左ノ租率ニ依リ算出スヘシ但シ一等以上又ハ三十等以下ノ租率ニ依ル必要アルトキハ相當租率ヲ詮定スヘシ

等級	一箇年一甲ノ租率
一等	金六百圓
二等	金五百六十圓
三等	金五百二十五圓
四等	金四百九十圓
五等	金四百六十圓
六等	金四百三十圓
七等	金四百圓
八等	金三百七十圓
九等	金三百四十五圓
十等	金三百二十圓
十一等	金二百九十五圓
十二等	金二百七十圓
十三等	金二百五十圓
十四等	金二百三十圓
十五等	金二百十圓
十六等	金百九十圓
十七等	金百七十圓
十八等	金百五十圓
十九等	金百三十五圓
二十等	金百二十圓
二十一等	金百五圓
二十二等	金九十圓
二十三等	金七十五圓

二十四等　金六十圓
二十五等　金五十圓
二十六等　金四十圓
二十七等　金三十圓
二十八等　金二十圓
二十九等　金十五圓
三十等　金十圓

第三條　新ニ等級（前條但書ニ依ル租率ヲ含ム以下凡テ同シ）ヲ付シ又ハ等級ヲ更正スル場合ハ地味ノ肥瘠耕耘ノ難易水利運輸ノ便否等ヲ鑑ミ近傍類似ノ官租地近傍類似ノ官租地ナキトキハ近傍類似ノ民地小作料ヲ參酌シ適宜等級ヲ詮定スヘシ

第四條　官租地ノ等級及租額ハ一地番毎ニ之ヲ定ムヘシ但シ一地番ノ官租十錢未滿ノモノハ十錢ト爲ス官租ノ算出上十錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツヘシ

第五條　削除

第六條　削除

第六條ノ二　官租地ノ貸付ハ期限ヲ附セサルモノトス但シ必要アル場合ハ十箇年内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七條　官租地ノ貸付契約ニハ所在、地番、地目、等級、一甲一箇年ノ租率、甲數、租額及貸付期限ヲ定メ左ノ條件ヲ附スヘシ

一　官租ハ毎年官ノ指定スル時期ニ於テ何年（何年下半年）分ヨリ納付スヘシ

二　官租ハ前記ノ租率ニ依リ土地臺帳ノ甲數ニ應シ、土地臺帳ニ登錄セサル土地ナルトキハ官租地臺帳ノ甲數ニ應シ徵收シ年ノ豐凶ニ依リ增減セス但シ甲數ニ異動ヲ生シタルトキハ第十四號ノ場合ヲ除ク外其ノ土地異動ノ翌年分ヨリ更正甲數ニ應シテ徵收ス

三　租額ノ誤記、違算ヲ訂正シ又ハ土地ノ分割、合併ニ依リ租額ニ增減ヲ生シタルトキハ臺灣地租規則施行規則第三十一條第三項ノ規定ニ準シ徵收ス

四　土地ノ狀況ニ依リ官租地ノ等級實地ニ適合セスト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

五　官租地ノ返還ヲ爲サムトスルトキハ願出許可ヲ受クヘシ但シ期限ノ到來シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　官租地ニ對シテ有スル權利ハ讓渡シ又ハ質權其ノ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

七　官租地ニシテ臺灣地租規則第一條第四號以外ノ地目ニ、田、畑、養魚池ヲ田、畑、養魚池以外ノ地目ニ變換シ又ハ地盤ヲ變更セムトスル場合ハ願出許可ヲ受クヘシ

前項ノ地目變換又ハ地盤變更ヲ完了シタルトキハ三十日内ニ申告スヘシ

八　許可ヲ受ケスシテ前號ノ地目變換又ハ地盤變更ヲ爲シタルトキハ期限ヲ附シ復舊ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ期限内ニ復舊セサルトキハ官ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ヲ徵收ス

九　借受人死亡シタルトキハ其ノ相續者ハ三十日内ニ申告スヘシ

十　納租代人ヲ設定シ又ハ管理人、納租代人ヲ變更シタルトキハ三十日内ニ申告スヘシ

十一　借受人、管理人又ハ納租代人住所氏名ヲ變更シタルトキハ三十日内ニ申告スヘシ

十二　左ノ場合ニ於テハ貸付ノ契約ヲ解除スルコトアルヘシ但シ之ニ因リ損害ヲ生スルコトアルモ官ハ其ノ賠償ノ責ニ任セス

イ　官ニ於テ必要ト認メタルトキ

ロ　貸付條件ヲ遵守セサルトキ

ハ　官租ノ納付ヲ怠リタルトキ

ニ　官租地ノ地力ヲ減耗シ又ハ減耗セシムルノ處アルトキ

ホ　官租地ヲ荒廢ニ委シタルトキ

十三　官租ハ貸付契約ノ解除又ハ期限ノ到來カ六月三十日以前ナルトキハ其ノ年下半年分ヨリ七月一日以降ナルトキハ其ノ翌年分ヨリ徵收セス但シ前號ロ乃至ホニ依リ解除シタルトキハ其ノ時期ニ拘ラス其ノ年分全額ヲ徵收ス

十四　官租地カ地目變換ノ爲一地番全部河海湖トナリタルトキハ官租ハ地目變換カ六月三十日以前ナルトキハ其ノ年下半年分ヨリ七月一日以降ナルトキハ其ノ翌年分ヨリ免除ス

十五　借受人カ土地改良ノ爲ニ費シタル費用ハ官ハ之カ償還ノ責ニ任セス

十六　借受人ニ於テ土地改良ノ爲借受地ニ對シ施設ヲ爲シ又ハ經費ヲ負擔セムトスルトキハ低減年期付與ノ豫約ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ願書ニハ事業計畫書ヲ添附スヘシ

第一項ノ事業成功シタルトキハ三十日内ニ申告スヘシ

十七　其ノ他必要ト認メタル事項

第七條ノ二　官租地ニ對シ施設ヲ爲シ又ハ經費ヲ負擔シ土地改良ノ計畫ヲ以テ貸付ト同時ニ低減年期付與ノ豫約出願アリタルトキ若ハ前條第十六號ノ出願アリタルトキハ改良ノ難易ニ依リ低減額及十年以内ノ期間ヲ定メ之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ出願アリタルトキハ事業ノ種類、方法、著手時期、成功期間、事業及經費ノ年度配當及事業ノ收支豫算ヲ明カニセル事業計畫書ヲ徵シ成功後三十日内ニ成功申告ヲ爲サシムヘシ

前項成功期間内ニ事業成功セサルトキハ第一項ノ許可ヲ取消スヘシ

事業ノ成功期間ハ許可ノ日ヨリ起算シ三年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ天災其ノ他已ムヲ得サル事情ニ因リ期間内ニ成功セサルトキハ願出ニ依リ成功期間ノ延期ヲ許可スルコトヲ得

第七條ノ三　貸付シタル官租地ノ等級ヲ更正シタルトキハ別記第二十五號樣式ニ依リ其ノ旨借受人ニ通知スヘシ

第八條　新規登錄又ハ契約解除ノ土地ニシテ貸付出願ナキ官租地ハ五月一日及十一月一日ノ現在ニ依リ左ノ時期ニ於テ州(廳)報ニ公告ヲ爲シ且土地所在地ノ市街庄役場ニ揭示シ一般周知ノ方法ヲ講スヘシ

五月　十一月

第九條　官租徵收上特ニ必要ト認メタル場合ハ一名若ハ數名ノ納稅保證人ヲ立テ願書及請書ニ連署セシムヘシ

第十條　借受人カ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ法人ナラサル祭祀公業ナルトキハ本令ニ依ル願書又ハ申告書ハ其ノ管理人ヨリ提出セシムヘシ

官租地臺帳ニ登錄ナキ管理人ニ對シテハ其ノ管理人タル事實ヲ證スヘキ證據書類ヲ提出セシムヘシ但シ證據書類ハ檢閱ノ上直ニ還付スヘシ

第十條ノ二　借受人ニシテ官租納入地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ官租納入ニ關スル事務ヲ處理スル爲納租代人ヲ設置セシムヘシ

第十一條　削除

第十二條　左ノ場合ニ於テハ復舊ノ難易勞費ノ多寡ヲ鑑ミ五箇年以內ノ官租免除年期ヲ付與スルコトヲ得但シ荒地ノ被害輕少ニシテ復舊工事容易ナリト認ムルトキ又ハ一時荒廢ニ歸シタル爲原野ノ狀態ニアルモノ及耕地間ニ介在スル山林原野等ニシテ普通ノ勞費ニ過キサルモノハ免除年期ヲ付與スルノ限ニ在ラス

一　貸付中天災ニ罹リ土地ノ形狀ヲ變シ若ハ作土ヲ損シタルトキ

二　貸付中ノ山林原野等ヲ開墾セムトスルトキ

三　荒廢地ヲ貸付スルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ以テ山林原野等ヲ貸付スルトキ

官租免除年期中再ヒ免除年期ヲ付與シタルトキハ前ニ付與シタル免除年期ハ消滅シタルモノトシテ處理スヘシ

第十二條ノ二　左ノ場合ニ於テハ復舊若ハ成熟ノ難易、收穫減少ノ歩合等ニ鑑ミ五年以內官租低減年期ヲ付與スルコトヲ得

一　貸付中天災其ノ他己ムヲ得サル事情ニ因リ收穫ノ減少甚シキトキ

二　前號ノ狀態ニアル土地ヲ貸付スルトキ

三　未成熟ノ田、畑、藁魚池ヲ貸付スルトキ

低減年期中更ニ免除年期ヲ付與シタル低減年期ハ消滅シタルモノトシテ處理スヘシ

第十二條ノ三　免除年期又ハ低減年期中貸付契約ヲ解除シタルトキハ其ノ免除又ハ低減年期ハ消滅シタルモノトシテ處理スヘシ

第十三條　免除年期及低減年期ハ左ノ區分ニ依リ起算スヘシ

一　第七條ノ二ノ場合ハ事業成功ノ翌年

二　第十二條第一號及第十二條ノ二第一項第一號ノ場合ハ被害ノ翌年

三　第十二條第二號ノ場合ハ免除年期付與ノ翌年

四　第十二條第三號及第十二條ノ二第一項第二號、第三號ノ場合ハ其ノ契約締結ノ年

第十三條ノ二　貸付中ノ山林、原野等ヲ開墾シタルトキ、等級ノ異ナル土地ヲ合併シタルトキハ其ノ等級ヲ更正スヘシ

土地改良ノ爲低減年期付與ノ豫約ヲ許可シタルモノニシテ事業成功シタルトキハ直ニ等級ヲ更正スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ免除年期中ニ係ルモノハ滿期處分ノ際之ヲ爲スヘシ

第十四條 官租ハ貸付カ六月三十日以前ナルトキハ其ノ年下半年分ヨリ、七月一日以降ナルトキハ其ノ翌年分ヨリ徵收スヘシ

官租地ノ等級ヲ更正シタルトキハ其ノ翌年分ヨリ更正租額ニ依リ徵收スヘシ但シ免除滿期地ニ對シ滿期處分ト同時ニ更正シタルトキハ其ノ年分ヨリ更正租額ニ依リ徵收スヘシ

租額ノ誤記、違算ヲ訂正シ又ハ土地ノ分割、合併ニ因リ租額ニ增減ヲ生シタルトキハ臺灣地租規則施行規則第三十一條第三項ノ規定ニ準シ徵收スヘシ

第十四條ノ二 貸付シタル官租地ノ所在、地番、地目及甲數ニ異動ヲ生シタルトキハ異動處分後直ニ等級ヲ更正スル場合ヲ除ク外官租地臺帳更訂後別記第二十七號樣式ニ依リ其ノ旨借受人ニ通知スヘシ

第十五條 一街庄內ノ貸付地全部ニ對シ契約ヲ解除シタルトキ其ノ年分ノ官租未納額ハ解除ノ際之ヲ徵收スヘシ

第十六條 官租ハ二期ニ區分シ左ノ期間內ニ於テ州知事又ハ廳長期ヨヲ定メ之ヲ徵收スヘシ

前期	七月一日ヨリ 九月三十日迄	其ノ年分ノ半額
後期	十二月一日ヨリ 翌年二月末日迄	其ノ年分ノ殘額

地方ノ狀況ニ依リ前期ニ於テ全年分ヲ徵收スルコトヲ得

第十七條 官租地臺帳ハ別記第一號樣式ニ依ルヘシ

官租地ノ甲數、租額及筆數ノ合計ハ別記第二號樣式ノ官租地集計簿ニ登錄スヘシ但シ免除年期地ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 貸付シタル土地ハ別記第三號樣式ノ官租名寄帳ニ登錄シ滿期年別ニ甲數、租額、筆數、人員ノ合計ヲ別記第四號樣式ノ官租名寄帳集計簿ニ登錄スヘシ但シ免除年期地ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條ノ二 返地シタル土地ニ對シ更ニ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ地目、地番、甲數、租額カ返地當時ト同一ナルトキハ其ノ返地及貸付ニ係ル甲數、租額及筆數ニ對シテハ官租地集計簿ノ記載ヲ省略スルコトヲ得但シ六月三十日以前ニ返地シタルモノヲ其ノ年七月一日以降ニ貸付シ又ハ十二月三十一日以前ニ返地シタルモノヲ其ノ翌年一月一日以降ニ貸付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 免除年期又ハ低減年期ヲ付與シタル土地ハ別記第五號樣式ノ官租免除地臺帳又ハ官租低減地臺帳ニ登錄スヘシ

第二十條 本令ニ依リ願書及申告書ヲ受理シ又ハ調書ヲ作成シタルトキハ之ヲ官租地臺帳及地圖ト照合シ其ノ書類ノ餘白ニ別記第七號樣式ノ印ヲ押捺シ別記第六號樣式ノ官租事務整理簿ニ記入シ處理ノ既未濟ヲ明瞭ナラシムヘシ

第二十一條 官租地ノ貸付、返地、免除年期付與、低減年期付與、地目ノ變換及地盤ノ變更ハ別記第十三號乃至第十六號樣式ニ依リ願書ヲ提出セシムヘシ

第二十二條　左ノ場合ニ於テハ實地ノ檢査ヲ爲スヘシ

一　貸付ヲ爲サムトスルトキ但シ借受人交替其ノ他ノ場合ニ於テ必要ナシト認メタルトキハ檢査ヲ省略スルコトヲ得

二　免除年期又ハ低減年期ヲ付與セムトスルトキ

三　地目ノ變換、地盤ノ變更ヲ許可セムトスルトキ及其ノ成功ノ申告ヲ受ケタルトキ

四　契約解除ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキ

五　免除年期滿了ノトキ

六　等級ノ更正ヲ爲サムトスルトキ

七　第七條ノ二第二項ノ申告ヲ受ケタルトキ

第二十三條　實地檢查ノ方法及時期ハ大正十二年訓令第十號臺灣地租規則取扱心得ニ準シ施行スヘシ

第二十四條　削除

第二十五條　新ニ官租地臺帳ニ登錄セムトスルトキハ別記第八號樣式ノ調書ヲ作成スヘシ

第二十六條　免除滿期地ニ對シテハ實地檢查著手前、低減滿期地ニ付テハ低減年期滿了ノ翌年前期官租納期前別記第九號樣式ノ調書ヲ作成スヘシ但シ河海湖ニ變換シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條ノ二　官租地ヲ官用ニ供スルコトヲ臺灣總督ニ於テ認可シタル場合ニ於テ其ノ目的地カ貸付中ノモノナルトキハ認可指令後契約ヲ解除スヘシ

第二十七條　貸付期限ノ到來、地目變換、分割、合併、地域變更、地盤測量誤謬訂正、等級更正、契約解除又ハ

甲數租額ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ別記第十號樣式ノ調書ヲ作成スヘシ但シ地域變更地、地盤測量誤謬訂正地ニシテ甲數ニ增減ナキモノハ調書ノ作成ヲ要セス

第二十七條ノ二　甲數異動ノ爲租額ニ增減ヲ生シタル官租地ニ對シ其ノ甲數更正處分後直ニ等級ヲ更正スルトキハ前年ノ甲數異動ニ係ルモノヲ除ク外甲數異動ニ伴フ租額增減ノ處理ヲ要セス直ニ等級ヲ更正スヘシ此ノ場合ニ於テハ甲數ノ異動ニ關スル調書ニ其ノ旨記載スヘシ

第二十七條ノ三　免除滿期地實地檢查ニ依リ地目變換又ハ甲數ニ異動アルコトヲ發見シ免除滿期處分前其ノ異動ノ土地臺帳ノ處分完了シタルトキ又ハ滿期處分ニ際シ等級ヲ更正セムトスルトキハ免除滿期ノ處分ニテ其ノ土地異動ヲ整理シ又ハ等級ノ更正ヲ爲スヘシ

第二十七條ノ四　地目變換又ハ免除滿期地賦租ト同時ニ等級ヲ更正セムトスルトキハ免除滿期地賦租ノ處分ニテ其ノ等級ノ更正ヲ爲スヘシ

第二十七條ノ五　低減年期中ニ係ル土地ハ其ノ甲數ニ異動ヲ生スルコトアルモ低減額ハ之ヲ變更セサルモノトス

第二十八條　官租地ヲ官租地臺帳ヨリ除却セムトスルトキハ臺灣總督ニ稟申スヘシ但シ第一條ノ二第二項但書ニ依リ除却スルトキ又ハ臺灣總督ニ於テ拂下交換等ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ官租地臺帳ヨリ除却スルトキハ地目變換ニ因ルモノヲ除ク外別記第十一號樣式ノ調書ヲ作成スヘシ

第二十九條　一地番ノ土地ノ一部分官用地域、免除年期付與其ノ他ノ異動ニ係ル爲其ノ土地ヲ分割スルトキハ殘地ノ官租ヲ算出シ其ノ官租ヲ原額ヨリ控除シタル殘額ヲ異動ニ係ル土地ノ官租トシ處理スヘシ

合併後地域變更其ノ他ノ異動ニ依リ租額ニ增減ヲ生スル場合ハ原租額ヲ合シタル額ヲ合併地ノ租額トシ處理ス

ヘシ

低減年期中ノ土地ヲ分割シタルトキハ低減額ハ原低減額ヲ各分割地ノ甲數ニ分配シタルモノヲ分割地ノ低減額トシテ處理スヘシ

第三十條 第二十一條乃至前條ノ手續ヲ了シタルトキハ異動種類毎ニ願書申告書及調書ヲ分類シ別記第十二號樣式ノ集計表ヲ作成シ決議指令又ハ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 前條ノ決議指令又ハ通知ヲ了シタルトキハ直ニ官租地臺帳、官租免除地臺帳、官租低減地臺帳ヲ加除訂正シ官租名寄帳ハ徵收又ハ免除スヘキ年ノ納期前ニ至リ加除訂正スヘシ

第三十二條 新ニ官租地臺帳ニ登錄スヘキ土地及官租地臺帳既登錄地異動ノ整理ヲ要スルモノハ左ノ期間ニ第三十條ノ手續及官租地臺帳ノ整理ヲ完了スヘシ但シ開墾又ハ地目變換ニ因リ新ニ貸付スヘキモノハ同期間ニ貸付ノ手續ヲモ完了スルコトヲ要ス

一 土地臺帳ノ處分カ一月以降三月三十一日迄ニシテ前年ノ異動ニ係ルモノハ土地臺帳處分ノ年六月三十日迄但シ貸付ノ手續ハ土地臺帳處分ノ年六月三十日迄、十一月三十一日以前ノモノハ其ノ年六月三十日迄、十一月三十一日以前ノモノハ十二月三十一日迄、十二月中ノモノハ其ノ翌年三月三十一日迄

二 前號ニ該當スルモノヲ除ク外土地臺帳處分カ五月三十一日以前ノモノハ其ノ年六月三十日迄、十一月三十一日以前ノモノハ十二月三十一日迄、十二月中ノモノハ其ノ翌年三月三十一日迄

三 土地臺帳ノ處分ニ關係ナキ異動ニ係ルモノハ其ノ時時

第三十三條 官租地ニ關スル申告書ハ別記第十七號乃至第二十一號樣式ニ依ラシムヘシ

第三十四條 借受人死亡シ相續人曠缺ノ場合ハ別記第十號樣式ノ六ニ準シ賃借權消滅調書ヲ作成シ官租地臺帳及官租名寄帳ハ事故欄ニ、集計簿ハ摘要欄ニ「消滅」ト記載シ削除スヘシ

第三十五條 官租ノ納額ハ調定ノ時時官租納額調理簿ニ登錄スヘシ

附 則

明治二十八年九月訓令第七號官租收納取扱心得明治三十四年七月訓令第二百二十三號明治三十五年一月訓令第七號臺灣地租及官租賦課事務取扱心得中官租ニ關スル事項同年四月訓令第百九號官租名寄帳加除例其ノ他官租ニ關スル從來ノ令達ハ總テ之ヲ廢止ス

（樣式略之）

附 則（明治四十五年訓令第百十二號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來等級ヲ付セスシテ官租地臺帳ニ登錄シタル官租地ハ本令施行ノ際相當等級ヲ詮定シ官租地臺帳ニ記入スヘシ

附 則（大正九年訓令第二百六十五號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正九年分官租ハ從前ノ租率ニ依リ徵收スヘシ

附 則（大正十一年訓令第四十九號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○土地整理組合規程

明治四十三年一月二十四日民財第一九五號
民政長官依命通達各廳長（除臺東花蓮港澎湖）宛

土地整理組合規程ニ關シ三十九年一月二十七日附民財第一八一號ヲ以テ及通達候處左ノ通改正相成候

左記

一　土地整理組合ハ一州下又ハ一廳下ヲ通シ一組合トナスコト（但シ澎湖郡ニハ當分ノ內本規程ヲ適用セス）

二　土地整理組合事務所ハ州又ハ廳構內ニ置クコト但シ必要ノ場合ハ稅務出張所內ニ土地整理組合出張所ヲ置クヲ得ルコト

三　國庫地以外ノ土地ノ所有者、質權者及百年ヨリ長キ存續期間ノ定メアル地上權者（以下單ニ地上權者ト稱ス）ハ總テ之ヲ組合員トスルコト

四　土地整理組合ハ左ノ役員ヲ置クコト

一　土地整理組合長

二　土地整理組合出張所長

三　土地整理委員長

四　土地整理委員

五　知事又ハ廳長ヲ組合長ニ、稅務出張所長ヲ出張所長ニ、市尹街庄長又ハ區長ヲ土地整理委員長トスルコト

六　土地整理委員ハ一大字毎ニ一人トシ當該大字內ニ常住シ土地ノ事情ニ通曉シ自ラ其ノ事務ニ當リ得ヘキ者ヲ以テ之ニ充ツ但シ土地整理組合長之ヲ選定スルコト但シ土地ノ情況ニ依リ一大字ニ二人以上又ハ數大字ニ一人ヲ置クヲ得ルコト

七　土地整理組合長ハ組合ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理スルコト但シ土地整理組合出張所長ヲシテ事務ノ一部ヲ分掌セシムルヲ得ルコト

八　土地整理委員長ハ土地整理組合長又ハ土地整理組合出張所長ノ指揮監督ヲ承ケ當該市街庄區ニ於ケル左ノ事務ニ從事スルコト

一　土地整理組合費徵收ノ補助

二　土地ノ異動ニ關スル願書又ハ申告書等ヲ取纏メ州廳又ハ稅務出張所ニ進達スルコト

九　土地整理委員ハ土地整理組合長土地整理組合出張所長及土地整理委員長ノ指揮監督ヲ承ケ當該擔當區域內ニ於ケル左ノ事務ニ從事スルコト

一　常時土地異動ノ有無ニ注意シ組合員ヲシテ地租ニ關スル法令ニ違背ナカラシムルコト

二　每年一定ノ時期ニ於テ擔當區域內（要塞地帶法ニ依リ取締ヲ要スル區域、蕃地及其ノ年地押調査施行ノ區域ヲ除ク、區劃變更等ノ爲特ニ必要ナシト認ムル區域亦同シ）ノ土地一筆每ニ地圖及關係帳簿ト實地トヲ對照シ異動ノ有無ヲ調査シ其ノ成績ヲ土地整理委員長ヲ經テ土地整理組合長又ハ土地整理組合出張所長ニ報告スルコト

三　組合員ニ代リ異動地ニ關スル願書又ハ申告書其ノ他必要ナル書類ヲ調製シ之ヲ土地整理委員長ニ送付スルコト

四　土地ノ檢查及測量ノ際實地ノ案內、關係人ノ召喚其ノ他土地整理ノ補助ヲナスコト

十　土地整理組合長ハ必要ノ場合ニ於テ事務員ヲ置クヲ得ルコト

十一　土地整理組合長ハ組合事務ヲ官吏ニ囑託スルコトヲ得ルコト

十二　土地整理組合長土地整理組合出張所長及土地整理委員長ハ無給トスルコト

十三　土地整理委員ニハ手當ヲ支給スルコトトシ左ノ事項ヲ參酌シ土地整理組合長其ノ額ヲ定メ每年一回直接ニ

本人ニ交付スルコト

一　異動地筆數

二　申告書類調製枚數

三　管内ノ甲數筆數

四　實地ニ於ケル勤務日數

五　勤勞ノ程度

六　勤務ノ成績

十四　削除

十五　事務員ニハ官吏ニ準シ宿舍料ヲ給スルヲ得ルコト

十六　囑託員及事務員ニシテ組合事務ノ爲旅行スルトキハ官吏ニ準シ旅費ヲ給スルコト但シ囑託員ニシテ他ニ官職アル者ハ其ノ官職ニ相當スル旅費ヲ支給スルヲ得ルコト

十七、十八　削除

十九　土地異動整理ノ用ニ供スル爲土地整理組合ニ所有者名簿及地圖ヲ設備スルコト

二十　所有者名簿ハ別記樣式ニ依リ土地臺帳ト毎筆照合ヲナスコト

二十一　地圖ハ州又ハ廳備付ノ地圖ヲ複寫シテ之ヲ調製シ年一回以上異動訂正ヲナシ其ノ地押調査區域ニ係ルモノハ調査著手前州又ハ廳備付ノ地圖ト毎筆照合ヲナスコト但シ地圖ノ表裝方ハ別記樣式ニ依ルコト

二十二　所有者名簿及地圖ハ異動訂正ノ外線字記號等ヲ描畫シ又塗抹改竄ヲナスヘカラサルコト

二十三　所有者名簿ハ土地整理委員長ニ於テ、地圖ハ土地整理組合長又ハ土地整理組合出張所長ニ於テ保管シ鎖鑰アル倉庫又ハ函内ニ藏メ腐蝕其ノ他損傷ノ豫防方法ヲ講スルコト

二十四　所有者名簿及地圖ハ組合ノ事務以外ニ閱覽又ハ使用セシムルヲ得サルコト但シ官公署事務ノ爲知事廳長又ハ稅務出張所長ノ要求アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二十五　所有者名簿及地圖ノ貸出、受入及閱覽ハ帳簿ニ記載シ其ノ事蹟ヲ明ニシ貸出、受入ノ際ハ其ノ時時該圖簿ヲ檢查スルコト

二十六　土地整理組合ノ會計年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トスルコト

二十七　土地整理組合ノ費用ハ組合員ノ負擔トシ其ノ負擔額ハ每年前期地租額二十五分ノ一以内ニ於テ土地整理組合長之ヲ定メ徵收スルコト但シ負擔額算出上一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨テ一人ノ負擔額一錢未滿ノモノハ一錢トシテ計算スルコト

二十八　土地整理組合費ハ每年前期分ノ地租ヲ納付スル組合員ヨリ該地租額ニ應シ地租ト同時ニ之ヲ徵收シ爾後異動アルモ追徵又ハ還付セサルコト

二十九、三十　削除

三十一　土地整理組合ノ現金ハ銀行預金、郵便貯金其ノ他確實ナル方法ヲ以テ土地整理組合長又ハ土地整理組合出張所長之ヲ保管スルコト

三十二　土地整理組合費ノ支出ハ凡ソ左ノ項目ニ依リ整理スルコト

項目		
諸給與	委員手當	
	給料	（囑託員手當事務員給料）
	賞與	
筆耕料		
物品費	備品費	
	用紙費	（所有者名簿、申告書類、告知書、收納簿、地圖ノ用紙類）
	消耗品費	
旅費		（用務毎ニ區分整理スルコト）
雜費	人夫賃	
	通信運搬費	
	表裝費	
	宿舍料	
	雜費	

三十三　土地整理組合費ノ支出ハ豫算差引簿ヲ設ケ當ニ各項豫算ノ現在額ヲ明ニスルコト

三十四　現金ノ收入及支出ハ其ノ都度一定ノ帳簿ニ記入シ收入支出ノ年月日、金額、支出ノ事由及殘高ヲ明ニシ尙受領證書其ノ他關係書類ヲ適宜整理スルコト

三十五　番地ニ付テハ大正九年府令第四十七號ニ依ル一地域ヲ一大字ニ準シ處理スルコト

所有者名簿樣式（略）

地圖樣式（略）

○臺灣水利組合令

大正十年十二月二十八日　律令第十號

第一條　灌漑排水又ハ水害豫防ノ爲必要アルトキハ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

水利組合ハ法人トス

第二條　水利組合ハ組合規約ヲ設ケ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ組合ニ關スル重要ナル事項ヲ規定スヘシ

第三條　水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ區域內ノ土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ所有スル者及臺灣總督ノ指定スル其ノ區域內ノ典主又ハ土地ノ主產物ヲ原料トスル製造業者ヲ以テ組合員トス

第四條　水利組合ヲ設置セムトスルトキハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ組合員タルヘキ者五人以上創立者ト爲リ組合規約ヲ作リ組合員タルヘキ者ノ總數ノ二分ノ一以上ニ當ル者ニシテ組合ノ區域ト爲ルヘキ土地ノ總面積ノ三分ノ二以上ニ當ル土地ヲ所有スル者ヲ含ムモノノ同意ヲ得テ臺灣總督ニ設置ノ認可ヲ申請スヘシ

水利組合ハ前項ノ認可アリタルトキ成立ス

第五條　前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ國有地ニシテ其ノ佃戶又ハ國有未墾地ノ貸付ヲ受ケ若ハ賣渡ノ豫約ヲ受ケタル者アルモノニ關シテハ佃戶又ハ貸付若ハ豫約ヲ受ケタル者ヲ以テ土地ヲ所有スル者ト看做ス

第六條　創立者第四條ノ認可ノ申請ノ爲必要アルトキハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ測量、調査又ハ障礙物除却ヲ爲スコトヲ得

前項ノ測量、調査又ハ障礙物除却ニ因リ生シタル損害ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ補償スヘシ

第七條　水利組合ハ合併又ハ廢止ヲ爲サムトスルトキハ組合員ノ同意ヲ、分割ヲ爲サムトスルトキハ分割後ノ各組合ノ組合員タルヘキ者ノ同意ヲ得テ臺灣總督ニ合併若ハ廢止又ハ分割ノ認可ヲ申請スヘシ

第四條第一項中同意ニ關スル規定及同條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

組合ハ債務ヲ完濟シタル後ニ非サレハ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

第一項及第二項ノ規定ハ組合區域ノ變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條　水利組合ニ組合長ヲ置キ知事又ハ廳長之ヲ命ス其ノ任期ハ四年トス

組合長ハ無給トス但シ組合規約ノ定ムル所ニ依リ有給ト爲スコトヲ得

第九條　組合長ハ組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ擔任ス

第十條　水利組合ニ組合長ノ外有給又ハ無給ノ吏員ヲ置ク

第十一條　本令ニ定ムルモノノ外組合吏員ノ任免、職務權限、服務紀律、懲戒、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十二條　水利組合ノ事務ニ關シ組合長ノ諮問ニ應セシムル爲水利組合ニ評議會ヲ置ク

評議會ハ組合長及評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十三條　評議員ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ組合員中ヨリ之ヲ互選ス

前項ノ規定ニ依ルノ外知事又ハ廳長ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ官吏、吏員又ハ組合員ノ中ヨリ評議員ヲ選任スルコトヲ得但シ其ノ員數ハ互選ニ依ル評議員ノ定數ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

評議員ハ無給トシ其ノ任期ハ四年トス

第十四條　水利組合ノ互選ニ依ル評議員ノ選任ハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條　臺灣總督ノ定ムル組合ニ關スル重要ナル事項ハ組合長之ヲ評議會ニ諮問スヘシ

前項ノ事項ノ外組合ニ關スル一切ノ事項ハ組合長之ヲ評議會ニ諮問スルコトヲ得

第十六條　評議會ニ諮問スヘキ事項ハ評議會ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ評議會組合長ノ諮問ニ對シ答申セサル場合ニ於テハ組合長之ヲ專決處理シ監督官廳ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

評議會ニ諮問スルノ暇ナシト認ムルモノアル場合ニ於テハ組合長之ヲ處理スルコトヲ得

第十七條　特別ノ事情アル組合ニ於テハ組合員總會ヲ以テ評議會ニ代フルコトヲ得

前項ノ組合員總會ニ關シテハ組合員ニ非サル組合長ハ之ヲ組合員ト看做ス

第十八條　本令ニ定ムルモノノ外評議會、評議員及組合員總會ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

組合吏員ノ費用辨償、報酬、給料、退職給與金、死亡給與金、退隱料、遺族扶助料其ノ他給與ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十九條　非常災害ノ爲必要アルトキハ水利組合ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ現品ヲ使

用シ若ハ收用スルコトヲ得

水利組合ハ前項ノ規定ニ依ル使用又ハ收用ニ因リテ生シタル損害ヲ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ補償スヘシ

第二十條 水利組合ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ組合費及夫役現品ヲ賦課スルコトヲ得

水害豫防ヲ目的トスル組合又ハ灌漑排水及水害豫防ヲ目的トスル組合ハ其ノ區域內ニ居住スル組合員ニ非サル者ニ對シ夫役ヲ賦課スルコトヲ得

第二十一條 水利組合ハ新ニ編入スル區域內ニ於ケル組合員ヨリ加入金ヲ徵收スルコトヲ得

水利組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合規約ニ違反シタル組合員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第二十二條 水利組合ハ其ノ營造物ヲ事業ノ妨害ト爲ラサル範圍內ニ於テ他ノ目的ニ使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル使用ニ付テハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第二十三條 水利組合ハ組合費其ノ他組合ノ收入ノ徵收ヲ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ地方公共團體ニ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ地方公共團體ノ徵收シタル金額ノ百分ノ四以內ヲ其ノ公共團體ニ交付スヘシ

避クヘカラサル災害ニ因リ地方公共團體既收ノ組合費其ノ他ノ組合ノ收入ヲ失ヒタルトキハ其ノ徵收金ニ付組合ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ地方公共團體ニ對シ納入ノ義務ヲ免除スヘシ

第二十四條 組合費、夫役現品、加入金、過怠金又ハ使用料ノ賦課徵收ヲ受ケタル者其ノ賦課徵收ヲ違法又ハ不當ト認ムルトキハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立ハ賦課徵收ノ執行ヲ妨クルコトナシ

第二十五條 組合費其ノ他ノ組合ノ徵收金ノ督促、滯納處分、追徵及還付ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前項ノ徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市街庄ノ徵收金ニ、市街庄ヲ置カサル地域ニ在リテハ廳地方費ノ徵收金ニ次ク

第二十六條 水利組合ハ特定ノ目的ノ爲金品ヲ積立ツルコトヲ得

第二十七條 水利組合ハ其ノ事業ノ關係上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 水利組合ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ借入金ヲ爲スコトヲ得

組合ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲必要アルトキハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 水利組合ハ每會計年度歲入歲出豫算ヲ調製シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ其ノ追加變更ヲ爲ス場合亦同シ

組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第三十條 豫算ニ於テ特ニ明示シタル經費及一年度內ニ終ルヘキ工事ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲事業ヲ遲延シ年度內ニ支出ヲ終ラサリシ經費ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第三十一條 數年ヲ期シテ支出スヘキ費用ハ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三十二條 水利組合ノ收入金及支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ收入金及支拂金ノ例ニ依ル

第三十三條 本令ニ定ムルモノノ外組合費、夫役現品、加入金、過怠金又ハ使用料ノ賦課徵收其ノ他組合ノ財務

ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十四條 水利組合ハ第一次ニ於テ郡守、市尹又ハ支廳長、第二次ニ於テ知事又ハ廳長、第三次ニ於テ臺灣總督之ヲ監督ス但シ組合ノ區域二以上ノ郡、市又ハ支廳管轄區域ニ亘ル場合ニ於テハ第一次ニ於テ知事又ハ廳長、第二次ニ於テ臺灣總督之ヲ監督シ組合ノ區域二以上ノ州又ハ廳管轄區域ニ亘ル場合ニ於テハ臺灣總督之ヲ監督ス

第三十五條 知事又ハ廳長ハ監督上必要ト認ムルトキハ組合長又ハ評議員ヲ解任スルコトヲ得

第三十六條 水利組合其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ組合ノ費用ヲ以テ監督官廳ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第三十七條 左ニ揭クル事項ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

一 組合規約ヲ變更スルコト

二 第二十八條第一項ノ借入金ヲ爲シ竝其ノ借入方法、利率及償還方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト

三 組合ノ事業計畫ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト

第三十八條 左ニ揭クル事項ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

一 不動產ノ管理方法及處分ニ關スルコト

二 積立金品ノ設置、管理方法及處分ニ關スルコト但シ積立テタル目的ノ爲處分スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三 寄附又ハ補助ヲ爲スコト

四 第二十八條第二項ノ借入金ヲ爲スコト

五 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲スコト

六 加入金ノ徵收ヲ爲スコト

七 繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト

第三十九條 監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ認可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ認可ヲ與フルコトヲ得

第四十條 第三十七條又ハ第三十八條ノ規定ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事件ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限リ認可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第四十一條 水利組合二以上ノ州又ハ廳管轄區域ニ亘ル場合ニ於テハ第八條第一項、第十三條第二項、第十四條及第三十五條ニ規定スル知事又ハ廳長ノ職權ハ臺灣總督之ヲ行フ

第四十二條 二以上ノ水利組合共同事業ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ協議ニ依リ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ水利組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

水利組合聯合會ハ法人トス

水利組合聯合會ノ組合ノ數ヲ增減シ又ハ共同事業ヲ變更セムトスルトキハ組合ノ協議ニ依リ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ聯合會ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

水利組合聯合會ニ關シテハ水利組合ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項ニ付テハ臺灣總督ハ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

前四項ニ定ムルモノノ外水利組合聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム（大正十一年五月府令第百二十二號ヲ以テ同年五月二十二日ヨリ施行）

公共埤圳組合又ハ官設埤圳水利組合ハ其ノ管理者ノ申請ニ依リ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケ之ヲ水利組合ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ官設埤圳水利組合ヲ水利組合ト爲シタルトキハ臺灣總督ハ必要ト認ムル條件ヲ附シ官設埤圳ヲ水利組合ニ交付スヘシ

○臺灣公共埤圳規則

明治三十四年七月四日
律令第六號

（改正）明治三十六年律令第三號、大正二年第三號

第一條 此規則ニ於テ公共埤圳ト稱スルハ田畑灌漑ノ爲ニ設ケタル水路溜池及其附屬物ニシテ行政官廳ニ於テ公共ノ利害ニ關係アリト認定シタルモノヲ云フ

河川池沼ノ堤防ニシテ前項ノ水利ニ直接ノ關係ヲ有スル部分ハ埤圳ノ一部トス

第二條 公共埤圳ノ區域ハ行政官廳之ヲ定ム

第三條 公共埤圳ノ廢止及變更ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ埤圳ノ新設ニ付テモ亦同シ

第四條 公共埤圳ノ利害關係人ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ規約ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ其之ヲ變更スルトキ亦同シ

第四條ノ二 公共埤圳ノ利害關係人ハ行政官廳ノ認可ヲ經テ組合ヲ組織スルコトヲ得

第四條ノ三 公共埤圳組合ハ法人トシ管理者之ヲ代表ス

第四條ノ四 公共埤圳組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ水租及費用ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第五條 公共埤圳ニシテ危害ヲ生シ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ之カ豫防ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第六條 公共埤圳ノ水租及費用ハ必要アリト認ムルトキハ行政官廳ニ於テ徵收シ之ヲ權利者ニ下付スルコトヲ得

第七條 公共埤圳ノ管理者ニシテ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定若ハ規約ニ定メタル義務ヲ履行セス又ハ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ行政官廳ハ地方稅ヲ以テ自ラ之ヲ執行シ其費用ヲ義務者ヨリ追徵スルコトヲ得

第八條 公共埤圳ノ管理者其他埤圳ノ事務ニ從事スル者此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定若ハ規約ニ違背シタルトキハ行政官廳ニ於テ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其處分ハ譴責三百圓以下ノ過怠金又ハ劍職トス

第九條 第四條ノ四第六條乃至第八條ノ徵收金ニ關シテハ臺灣國稅徵收規則中滯納處分ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 公共埤圳ニシテ舊慣アルモノハ此規則及此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定竝ニ規約ニ違背セサル限其ノ舊慣ニ依ル

第十一條 公共埤圳ノ水利ニ關スル一切ノ爭議ハ行政官廳之ヲ裁決ス

第十二條 第三條第四條又ハ第五條及之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第十三條 故意又ハ重大ナル過失ニ依リ公共埤圳又ハ官設埤圳ヲ破壞シ又ハ其水利ヲ害シ若ハ其水ヲ盜用シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第十四條 此規則ニ規定スルモノノ外公共埤圳及埤圳ニ關スル必要ナル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

第十五條 此規則第三條第五條及第七條ノ規定ハ之ヲ養魚池ニ準用ス

第十六條 此規則ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム（明治三十四年七月府令第四十九號ヲ以テ同年九月一日ヨリ之ヲ施行）

昭和十三年三月二十七日印刷
昭和十三年三月三十一日發行

臺灣米穀關係例規

定價 壹圓四拾錢
（送料拾五錢）

不許複製

發行人 三浦正三 臺北市東門町二八〇番地
印刷人 船橋寛一 臺北市大和町三丁目二番地
印刷所 臺北印刷株式會社 臺北市大和町三丁目二番地

發行所 臺灣總督府殖產局農務課內
臺灣農友會
振替 臺灣一三二五番